

# 第3次木更津市観光振興計画

令和7年3月  
木更津市



## はじめに

木更津市は、東京湾アクアラインをはじめとする交通利便性の高さに加え、上総丘陵や東京湾で唯一の自然干潟である盤洲干潟など、里山・里海の豊かな自然、そして心温かな市民の皆様を支えられている魅力あふれるまちです。また、地元食材を活かしたグルメや歴史文化や伝統行事など、多彩な観光資源が市内各地に広がっています。



近年、観光を取り巻く環境は大きく変化しています。多様化する旅行ニーズや持続可能な観光への関心の高まりに伴い、地域社会と観光が共生することの重要性がかつてないほど問われています。

このような中、本市では、「木更津市基本構想」に掲げる将来都市像の実現に向けたまちづくりの指針である「木更津市第3次基本計画」に基づき、観光分野の個別計画として本計画を策定しました。

今後5年間は、「自然とふれあう木更津時間～オーガニックツーリズムの推進～」のローガンのもと、市民、事業者、団体等、多様な主体との連携を一層深め、本市の魅力や強みを生かした持続可能な観光施策を推進してまいります。

本計画の推進には、多くの皆様のご理解とご協力が不可欠でございますので、本市のさらなる観光振興のため、今後ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定に当たり、専門的な立場から貴重な御意見、御審議をいただきました木更津市観光振興計画推進委員の皆様をはじめ、御協力いただきました関係者の皆様に、心から御礼申し上げます。

令和7年3月

木更津市長

A handwritten signature in black ink, written in a cursive style. The characters appear to be '清田芳子' (Kiyoda Yoshiko).



# 目次

第1章 観光振興計画策定の目的と背景	1
1 計画策定の目的	2
2 計画の推進期間と目標値	2
3 計画の位置付け	3
4 計画策定の背景	5
第2章 木更津市の概要と観光の現状	7
1 木更津市の概要	8
2 主な観光資源	9
3 観光市場の動向	14
第3章 施策の実施状況と観光の課題	22
1 第2次木更津市観光振興計画に掲げた施策の実施状況	23
2 木更津市の観光の現状分析	29
3 木更津市の観光の課題	30
第4章 基本目標と施策の方向性	31
1 基本目標	32
2 計画体系図	33
第5章 観光振興へ向けた施策	35
1 多様な地域資源の磨き上げによる付加価値化	36
2 立地の優位性を活かした誘客の推進	42
3 “オーガニックなまちづくり”の発信	49
4 市内の多様な主体、近隣地域、関連団体等と連携した観光地域づくり	53
第6章 計画の推進体制	56
1 推進体制	57
2 各主体の役割分担	57
3 施策の評価・効果検証	58
資料編	59

## 第1章 観光振興計画策定の目的と背景

# 第1章 観光振興計画策定の目的と背景

## 1 計画策定の目的

本市では、木更津市産業振興基本条例（平成24年木更津市条例第7号）に基づき、観光に係る諸施策を計画的に推進することを目的に、平成27年3月に『木更津市観光振興計画（平成27年度～令和元年度）』を、令和2年3月に『第2次木更津市観光振興計画（令和2年度～令和6年度）』を策定し、まちの賑わいの創出に向け関係団体と連携し各種観光施策を展開してきました。

第2次計画では、スタート段階から3年間の長期に渡る新型コロナウイルスの感染拡大により、人の移動は制限され、計画に沿った施策展開が難しくなり、ポストコロナにおける観光の潮流も変化しています。

大きな動きとしては、世界的に地域の観光振興においてサステナビリティの視点が求められるようになり、日本においても令和2年に「日本版持続可能な観光ガイドライン」（JSTS-D）が策定され、地域の観光振興への導入が進められています。

第3次木更津市観光振興計画は、このような観光をとりまく環境の変化を踏まえ、観光の現状や第2次計画において展開されてきた各種施策の進捗状況等について整理を行った上で、ポストコロナにおける観光振興を計画的に推進していくための指針として策定します。

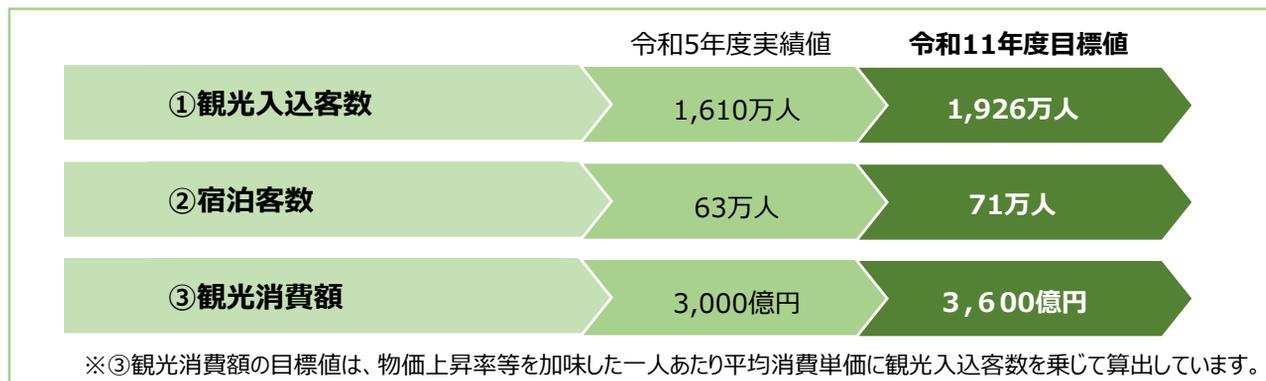
## 2 計画の推進期間と目標値（KGI）

本計画は、上位計画である木更津市第3次基本計画をはじめ関連計画との整合を図りつつ、**令和7年度（2025年度）から令和11年度（2029年度）までの5年間**を計画期間とします。

計画の推進にあたっては、各施策のKPI（重要業績評価指標）に対する達成度などに係る分析を行うとともに、学識経験者や関係団体等から構成される木更津市観光振興計画推進委員会による評価も取り入れながら、毎年度、進行管理を行います。

なお、本計画に基づいた施策については、観光地域づくり法人きさらづDMO（以下、「きさらづDMO」という。）及び、関係する団体が協力し実現を図るものとします。

### 目標値（KGI）



### 3 計画の位置付け

本計画では、「木更津市第3次基本計画」に掲げた観光に関連する諸施策を推進していくための具体的なプランを示します。

#### 木更津市第3次基本計画

##### 施策25 観光の振興

**目標：多様な観光資源を活かしたまちのにぎわいをめざし、本市が有する自然や歴史・文化、観光施設等の魅力ある観光地域づくりを推進します。**

##### 施策25-1 | 観光誘客の推進

- ・「木更津港まつり」や「KISARAZU PARK BAY FESTIVAL」等のイベントを開催します。
- ・市公式ホームページ、観光デジタルマップ「木更津おでかけナビ」、SNS等を活用し、観光情報の効果的かつタイムリーな発信を行うとともに、観光客の市内観光スポットへの回遊を促進します。
- ・アクアラインイースト観光連盟やちばプロモーション協議会等を通じたプロモーション活動等により観光誘客を推進します。
- ・近隣市及び民間事業者との協同により、千葉県誕生150周年記念事業となる「（仮称）百年後芸術祭ー内房総アートフェスー」を開催し、広域連携による観光誘客を推進します。
- ・自転車を活用した各種イベントの開催を通じ、サイクルツーリズムを推進します。
- ・木更津港への大型クルーズ船の寄港を促進します。

##### 施策25-2 | 観光地域づくりの推進

- ・きさらびDMOと連携を図り、観光で地域が稼ぐことのできる観光地域づくりを推進します。
- ・海辺を活かした「シーカヤック体験」や「絶景キャンプ」をはじめ、里山・里海等の地域資源を活かした観光コンテンツの充実に取り組みます。
- ・トレーラーハウス宿泊施設を活用するとともに、市内観光関連施設と連携を図り、新たな観光スタイルであるワーケーションを推進します。

##### 施策25-3 | 国際会議等のMICE誘致

- ・JNTOやちば国際コンベンションビューロー、かずさアカデミアパーク等と連携し、国際会議等のMICEの誘致を推進します。
- ・国際会議等が開催される際には、コンベンション施設や宿泊施設と連携し、会議運営を支援します。

#### その他関連施策

##### 施策20-4 | 都市と農村の交流促進

- ・生産者や関係団体等による「食」や「農」をテーマとするイベントの開催を支援し、都市と農村の交流促進、地域農産物のPRや販売促進に取り組みます。
- ・道の駅「木更津 うまくたの里」を拠点とする地域農産物の販売を促進するとともに、農山漁村滞在型旅行やグリーンツーリズムを推進します。

##### 施策21-2 | 人と森林の共生

- ・森林事業が行われていない里山の保全に向けた教育・研修活動に、森林所有者だけでなく市民参加を促しながら、森林の有する多面的機能への理解促進や山林との共生に取り組みます。

### **施策22-3 | 観光漁業の推進**

- ・潮干狩り場への入場数の増加を図るため、市公式ホームページやパンフレット、ポスター等による観光宣伝に加え、観光施設や商業施設等と連携したPR活動を強化します。
- ・潮干狩り場周辺の施設環境を整備するとともに、来場者の市内各所への回遊を促進します。

### **施策26-1 | 東京湾アクアラインを活用した地域づくりの推進**

- ・東京湾アクアライン通行料金引下げの効果を、本市への定住人口の増加及び産業利用の拡大に結び付けるための取組を継続的・発展的に実施します。
- ・道の駅「木更津 うまくたの里」や宿泊型総合スポーツ施設「木更津スポーツヴィレッジ」、旧富岡小学校跡地のグランピング施設「エトワ木更津」や周辺地域の大型商業施設やレジャー施設等、市内の地域資源を有効活用することにより、回遊性を促進し、交流人口を増やします。
- ・恒久的な東京湾アクアライン通行料金の引下げについて、県南部地域の行政や経済団体等と連携し、機会を捉えながら国や県に働きかけます。

### **施策26-2 | みなとまち木更津の再生**

- ・内港地区周辺の都市公園の段階的な再整備を推進します。
- ・富士見通りのにぎわい創出に向け、無電柱化と歩道の再整備を行うとともに、アーケードの撤去に対する支援を行います。
- ・多様な文化活動の発表・発信ができるホール機能を有するとともに、図書館、公民館や災害時に防災活動の拠点となる機能も複合した文化芸術施設の整備を進めます。

### **施策26-3 | 木更津金田バスターミナル「チバスタアクア金田」の利便性向上**

- ・木更津金田バスターミナルにおいて、高速バスや路線バスの乗入便数及び乗継可能路線の増加を進め、高速バスネットワークの拠点施設としての機能強化を進めます。

### **施策26-4 | 「道の駅木更津 うまくたの里」の活用**

- ・道の駅を地域住民や生産者と観光客が集い交流する拠点として、農山漁村滞在型旅行による都市との広域間交流を推進するなど、農業振興や観光振興に取り組みます。
- ・道の駅利用者や地域の生産者が安心・安全かつ快適に利用できるよう、施設や周辺環境の整備を進めます。
- ・年間40万人以上の方々に利用される当施設の更なる魅力向上に向けた拡張整備に取り組みます。

## 4 計画策定の背景

### 国の動向

2016年に示された「明日の日本を支える観光ビジョン」を基に、2017年に『観光立国推進基本計画』が策定され、それを指針として具体的な施策が展開されてきました。国の政策はインバウンドに重点が置かれ、2030年までに訪日外国人旅行者を6,000万人、観光消費額を15兆円まで伸ばす目標を掲げてきましたが、新型コロナウイルスの感染が拡大した2020年から2022年のアクション・プログラムでは、雇用の維持と事業の継続に対する支援、反転攻勢に転じるための基盤の整備、国内旅行の需要喚起、インバウンド回復等の施策が示され、観光関連産業の支援策とともに、観光コンテンツの高付加価値化、ワーケーション等、新たな観光のスタイルなども盛り込まれました。

そして、コロナ禍の収束が見えた2023年3月には、コロナ禍による甚大なダメージからの回復期間として2023年から2025年の3か年の『観光立国推進基本計画（第4次）』が閣議決定されました。ここでは、「持続可能な観光地域づくり」、「インバウンド回復戦略」、「国内交流拡大戦略」の基本方針が掲げられ、持続可能な観光の復活が示されています。

	目標	明日の日本を支える観光ビジョン 2030目標	観光立国推進基本計画 2025年目標 早期達成目標	2023年実績
地域づくり	持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数		100地域	31地域 (2023/11/29時点)
インバウンド回復	訪日外国人旅行者数	6000万人	2019年水準越え (3188万人)	2506.6万人
	訪日外国人旅行消費額	15兆円	5兆円	5.3兆円
	訪日外国人旅行消費単価	(25万円)	20万円	21.3万円
	訪日外国人旅行者 一人当たり地方部宿泊数		2泊	1.27泊
	訪日外国人旅行者の 地方部延べ宿泊者数	1億3千万人泊		3190.9万人泊
	日本人の海外旅行者数		2019年水準越え	962.4万人
	アジア主要国における国際会議 の開催件数に占める割合		2019年水準越え (アジア主要国シェア3割以上)	アジア1位 (32.7%)
国内交流	日本人の地方部延べ宿泊者数		3.2億人泊	2.9億人泊
	日本人国内旅行消費額	22兆円	22兆円 20兆円	21.9兆円

出展：観光庁「観光立国推進基本計画（第4次）について」  
<https://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/content/001743148.pdf>

『観光立国推進基本計画（第4次）』における3つの基本方針と各方針における施策は以下のとおりです。

### 持続可能な観光地域づくり戦略

- (1) 地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化
- (2) 観光 DX の推進
- (3) 観光産業の革新
- (4) 観光人材の育成・確保
- (5) 観光地域づくり法人（DMO）を司令塔とした観光地域づくりの推進

- (6) 持続可能な観光地域づくりのための体制整備等の推進
- (7) 良好な景観の形成・保全・活用
- (8) 持続可能な観光地域づくりに資する各種の取組
- (9) 国家戦略特区制度等の活用
- (10) 旅行者の安全の確保等
- (11) 東日本大震災からの観光復興
- (12) 観光に関する統計等の整備・利活用の推進

### インバウンド回復戦略

- (1) インバウンドの回復に向けた集中的取組
- (2) 消費拡大に効果の高いコンテンツの整備
- (3) 地方誘客に効果の高いコンテンツの整備
- (4) 訪日旅行での高付加価値旅行者の誘致促進
- (5) 戦略的な訪日プロモーションの実施

- (6) MICEの推進
- (7) IR整備の推進
- (8) インバウンド受入環境の整備
- (9) アウトバウンド・国際相互交流の促進
- (10) 国際観光旅客税の活用

### 国内交流拡大戦略

- (1) 国内旅行需要の喚起
- (2) 新たな交流市場の開拓
- (3) 国内旅行需要の平準化の促進

### 目指す2025年の姿

- 活力に満ちた地域社会の実現に向け、地域の社会・経済に好循環を生む「持続可能な観光地域づくり」が全国各地で進められ、観光の質の向上、観光産業の収益力・生産性の向上、交流人口・関係人口の拡大がコロナ前より進んだ形で観光が復活している。
- 万博の開催地である我が国が世界的潮流を捉えた観光地として脚光を浴び、「持続可能な観光」の先進地としても注目されている。

出典：観光庁「観光立国推進基本計画（第4次）」令和5年3月31日閣議決定

## 第2章 木更津市の概要と観光の現状

## 第2章 木更津市の概要と観光の現状

### 1 木更津市の概要

#### (1)地勢

東京湾アクアラインの着岸地に位置し、東京都心部から直線距離で30～40 km、時間距離では、東京湾アクアライン経由により30～40分圏域にあり、首都圏中央連絡自動車道や東関東自動車道館山線の整備進展により、広域道路ネットワークを形成する幹線軸上に位置しています。

市域は、東西に長く、東部には丘陵地が広がり、西部は平地の地形で中西部は東京湾に面し、東京湾に流れ込む複数の河川により沖積平野を形成しています。

小櫃川流域の東部、北部には田園地帯が広がり、河口付近の盤洲干潟は、東京湾に現存する最大の自然干潟で、貴重な生物や野鳥の生息地となっています。

また、富来田地区には湧水も豊富な泉「いっせんぼく」を有しており、海と山に囲まれた自然豊かな場所です。

気候は、温暖で過ごしやすく、天候の良い日には富士山を望むことができます。



#### (2)木更津市の沿革

本市は、菅生遺跡、請西遺跡群、金鈴塚古墳等から、原始・古代より重要な拠点として栄えていたことがうかがえ、金鈴塚古墳から出土した5つの純金製の鈴や豪華に装飾された大刀等が国の重要文化財に指定されています。中世には鎌倉と結ぶ渡船場として栄え、また、近世には木更津船が名をはせ、江戸の台所を支える物資の集積場として、木更津の繁栄の礎を築きました。

明治4年の廃藩置県施行により、木更津県が設置され、印旛県と合併し千葉県となるまでの1年7ヶ月間、県庁所在地となっています。大正元年には、国鉄木更津駅が開業し、宿場町として発達していた「西の港」と「東の駅」を結ぶ市街地は一段と活況を呈しました。

昭和17年に木更津、貝渕、吾妻の3村合併により市政を施行し、昭和40年には、木更津と川崎、横浜を結ぶカーフェリーが就航、昭和43年には木更津港が港湾法に基づく重要港湾に指定されています。昭和46年の富来田町との合併により概ね現在の市域となり、昭和51年には人口が10万人を突破しました。

平成4年には、多極分散型国土形成促進法に基づき首都機能の一翼を担う業務核都市として位置づけられ、木更津駅、木更津港を中心とする「木更津都心地区」と千葉県新産業三角構想の一角である「かずさアカデミアパーク地区」が業務施設集積地区として設定されました。

平成9年には、東京湾アクアラインが開通し、東関東自動車道館山線や首都圏中央連絡自動車道等の整備進展に伴い、高速道路ネットワークの結節点としての機能が強化され、東京・神奈川とを結ぶ高速バス網の充実や平成21年から実施された東京湾アクアライン通行料引下げの社会実験による波及効果等から、平成23年には人口が13万人を超えました。平成24年に金田地区に三井アウトレットパーク木更津が開業するなど、企業立地の進展や集客施設等の集積が進む中、令和4年には市制施行80周年を迎えています。

## 2 主な観光資源

### (1) 自然環境・体験

#### ① 里山

里山の再生の第一歩として、富来田地区の「いっせんぼく」周辺にあるハンノキ湿原の再生に向けた取組が行われています。「いっせんぼく」という名前は、いくつもの湧水がボクボクと湧き上がっていたことから、そう呼ばれるようになったと言われており、希少な植物、生物が数多く生息しています。「いっせんぼく」につながる「うまたの路」周辺は四季折々の自然が楽しめるハイキングスポットになっています。

また、ブルーベリー摘みや農産物などの収穫体験を楽しむことができ、多くの人が訪れます。



いっせんぼく



ハンノキ湿原



ブルーベリー摘み

#### ② 里海

里海を構成する一部である「盤洲干潟」は、小櫃川河口から東京湾に広がる自然干潟であり、「日本の重要湿地500」に選定されています。

その豊かな自然環境から、毎年多くの潮干狩り客で賑わうほか、釣りや簀立(すだて)なども楽しめ、金田みたて海岸にはワーケーションができるトレーラーハウス型宿泊施設なども整備されています。

また、東京湾唯一の自然干潟として、地域住民等による保全活動が続けられています。



盤洲干潟



潮干狩り



きさらづ CAMP ORGANIC FIELD in みたて

## (2) 歴史・文化

本市は、古くから東京湾に面した港町として発展し、豊かな自然と共に多様な歴史文化を育んできました。木更津駅西口（みなと口）を中心に、日本武尊（やまとたけるのみこと）を祭る八劔八幡神社や「証城寺の狸囃子」のモデルとなった證誠寺、境内に鎌足桜が植わる高蔵寺など歴史的建造物が数多く残っています。

また、金鈴塚古墳やその出土品をはじめとした指定・登録文化財や、江戸時代から続くお座敷体験などは、本市の歴史・文化を感じる上で重要な役割を果たしています。



八劔八幡神社



證誠寺



高蔵寺



金鈴塚古墳出土品（郷土博物館 金のすず）



木更津芸者



鎌足桜



関東一の大神輿（八劔八幡神社）



梵天立て（ぼんてんたて）

### (3) イベント・祭り

戦後間もない1948年に先覚者の慰霊を目的に始まった、本市最大のイベントである「木更津港まつり」をはじめ、日本武尊（やまとたけるのみこと）と弟橘媛（おとたちばなひめ）の伝説と、よさこい（鳴子踊り）を掛け合わせ誕生した“木更津舞尊”を演舞する「かずさ木更津よさこいまつり～木更津舞尊～」や、本市の「オーガニックなまちづくり」の更なる推進のための象徴である「KISARAZU ORGANIC CITY FESTIVAL」、海を身近に感じ水辺の楽しさを体験できる「KISARAZU PARK BAY FESTIVAL」、など、市内外から多くの人が訪れるイベントが開催されています。

また、東京湾アクアラインの橋梁部を走ることのできる「ちばアクアラインマラソン」や、普段入ることのできない陸上自衛隊木更津駐屯地で行われる「木更津トライアスロン大会」など、地域特性を活かしたスポーツイベントの開催により、本市の知名度向上や地域の活性化につながっています。



やっさいもっさい踊り大会  
(木更津港まつり)



花火大会  
(木更津港まつり)



KISARAZU ORGANIC CITY FESTIVAL



KISARAZU PARK BAY FESTIVAL



ちばアクアラインマラソン



木更津トライアスロン大会

### (4) 各種施設

本市には、近隣地域のみならず首都圏など広域からも誘客できる施設が数多くあります。

その中でも、里山などの地理的特性を活かした体験が可能な施設や、首都圏からのアクセス性の高さにより大規模な集客が可能な商業施設、施設内で飲食・宿泊・体験など多様なニーズに応えられる複合施設など、様々な施設が本市の魅力を上向きさせ、地域に直接的な経済効果をもたらしています。

## ① 複合施設



かずさアーク



龍宮城スパホテル三日月



KURKKU FIELDS



ポルシェ・エクスペリエンスセンター東京



海ほたるパーキングエリア（東京湾アクアライン）

## ② 商業施設



道の駅「木更津 うまかつの里」



三井アウトレットパーク木更津



イオンモール木更津



コストコホールセール木更津倉庫店

## (5) 公園

本市では、市民の憩いの場であるだけでなく、訪れるべき魅力の一つとして公園を活用しています。

桜の名所である太田山公園では夜桜のライトアップを行い、中の島公園と鳥居崎海浜公園をつなぐ日本一高い歩道橋である中の島大橋は「恋人の聖地」に選定されています。また、鳥居崎海浜公園は飲食店や宿泊施設などの施設を備えた公園にリニューアルしたことで、新たな観光スポットとして魅力を発信しています。



太田山公園



中の島大橋



鳥居崎海浜公園

## (6) 特産品・お土産

本市には、海苔やアサリなど従来からの名産品や公認ブランドである「木更津市優良特産品」に加え、農薬を使用せず有機肥料のみを用いて栽培された「きさらづ学校給食米」やブルーベリーなど、SDGs（持続可能な開発目標）への貢献をはじめ、地産地消や食育の推進など「オーガニックなまちづくり」の取組と結びついた特産品があります。



海苔



アサリ



きさらづ学校給食米



ブルーベリー



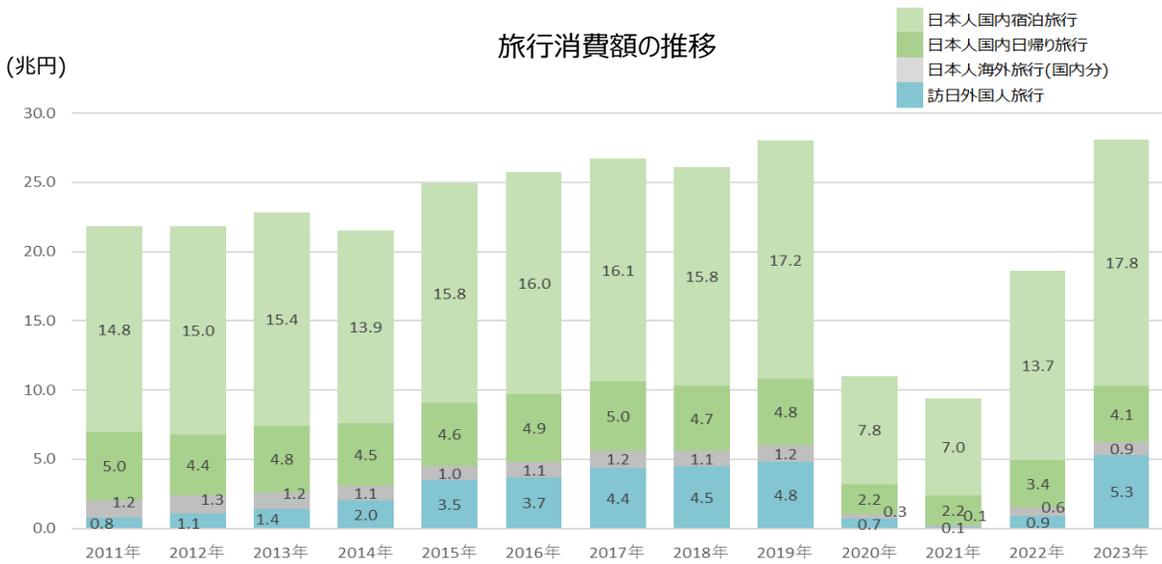
梨

### 3 観光市場の動向

#### (1) 国の動向

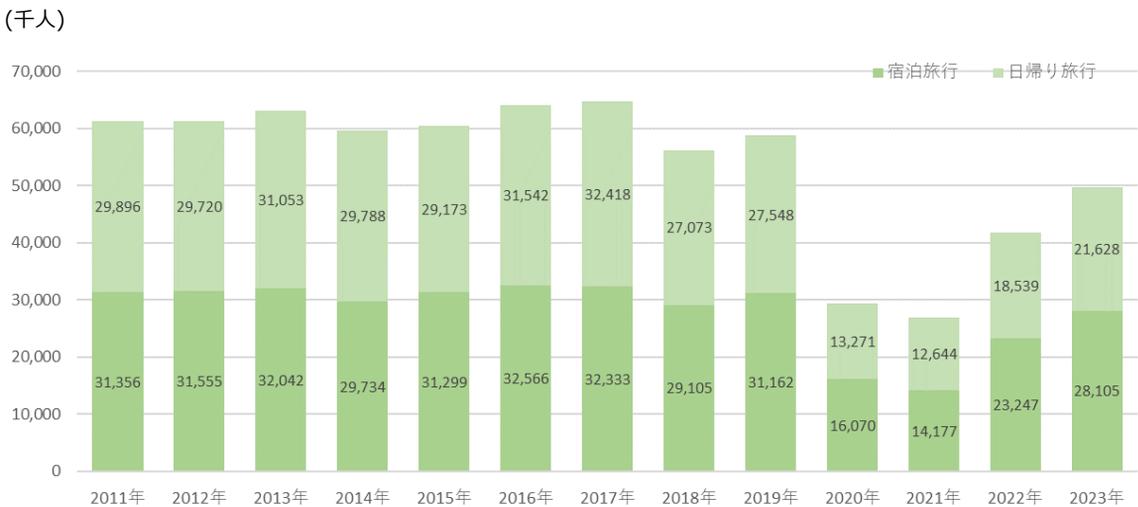
2019年までの旅行消費額の伸びは訪日外国人旅行者数の増加が牽引していましたが、全体の8割を占める日本人旅行者数は宿泊旅行・日帰り旅行ともに伸びていません。

2023年は日本人宿泊旅行者と外国人旅行者の消費額が2019年を上回っています。



出典：観光庁

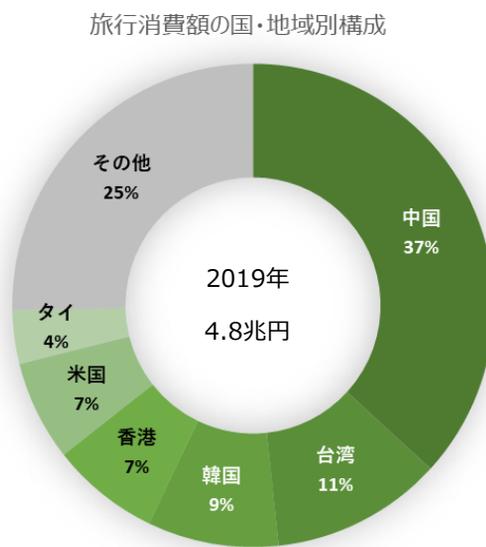
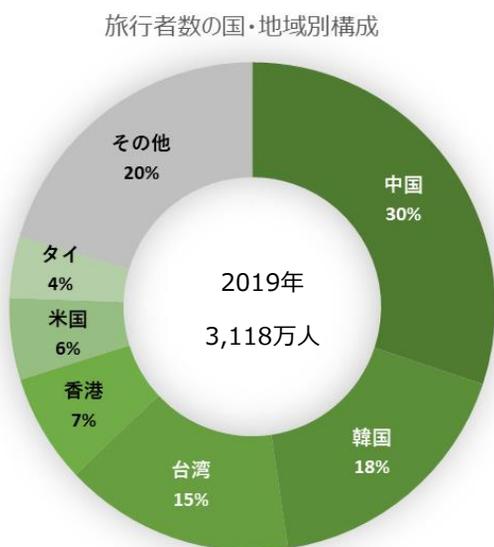
#### 国内延べ旅行者数の推移



出典：観光庁

訪日外国人旅行者数は年々増加しており、2019年には過去最多の3,188万人が訪れていました。新型コロナウイルス感染拡大による入国制限は2020年から2022年の約3年間に渡り続きましたが、2022年10月からの水際対策の緩和以降は順調に回復傾向にあります。

2019年の訪日外国人旅行者は、中国が最も多く、以下、韓国、台湾、香港、米国の順となっており、アジアからの旅行者が半数以上を占めています。旅行消費額の構成は、中国が4割弱を占めており、以下、台湾、韓国、香港、米国の順に多くなっています。



出典：日本政府観光局（JNTO）

## (2)千葉県の変向

新型コロナウイルス感染拡大前の2019年までの千葉県の観光入込客数、宿泊客数は順調に増加傾向にあったのに対し、君津エリアは宿泊者数は増加傾向でしたが、観光入込客数については横ばいになっています。

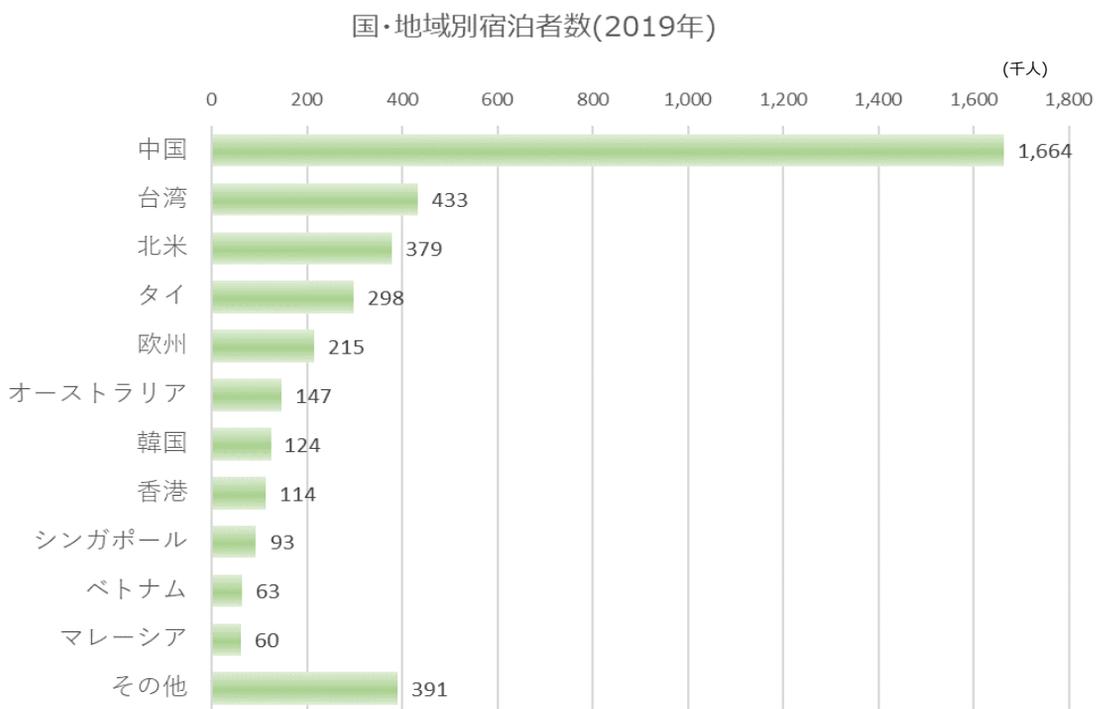
※2022年における宿泊客数の大幅な伸びは「全国旅行割」等の影響がうかがえます。



※君津エリア：袖ヶ浦市、木更津市、君津市、富津市

出典：千葉県観光入込調査報告書

千葉県外国人旅行者の宿泊客数は2019年までは順調に伸びており、398万人に達しています。国・地域別の宿泊者数を見ると、中国が166万人で全体の41.8%を占め、以下、台湾、北米、タイの順となっています。



出典：千葉県観光入込調査報告書

### (3)木更津市の動向

#### ① 本市の入込客数・宿泊客数

入込客数

1,610万人 (2023年度) (2022年度 : 1,580万人)



・入込客数は、2022年度比で30万7,725人の増加となっている。

延べ宿泊者数

63万人 (2023年度) (2022年度 : 61万人)



・延べ宿泊者数は、2022年度比で1万5,218人の増加となっている。

#### ② きさらづDMOによる来訪者調査等の結果

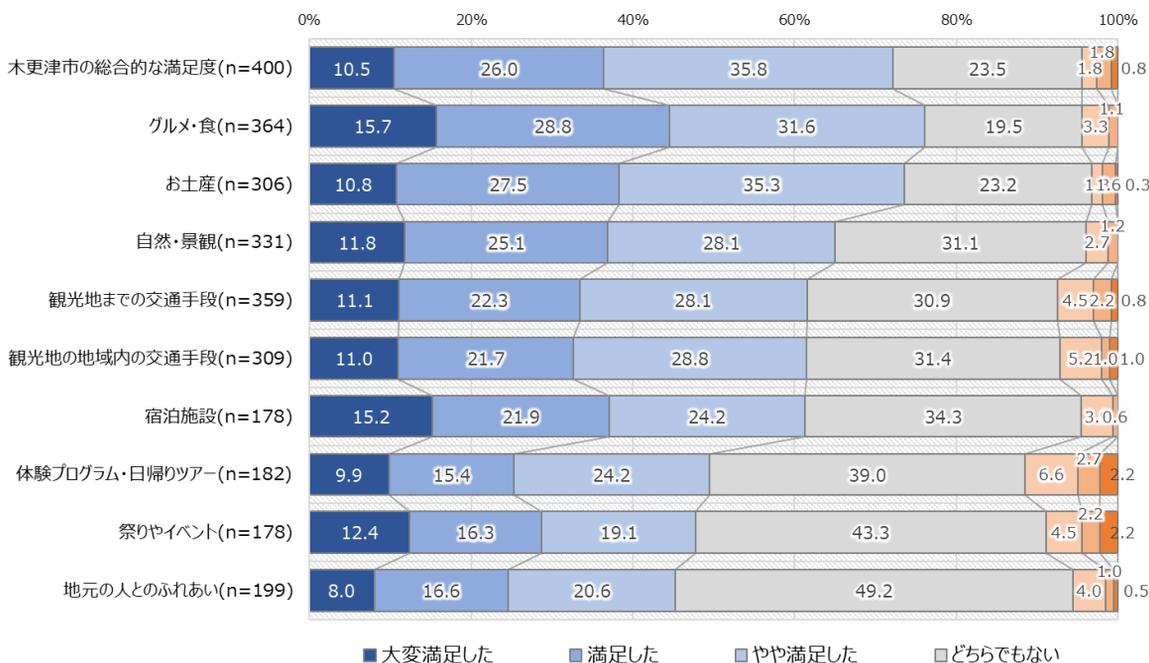
きさらづDMOが行った『2023来訪者調査』による、木更津市の観光の現状分析は以下のとおりです。

総合満足度

72.3% (2023年)\* (2022年 : 69.0%)\*



\*「大変満足した」・「満足した」・「やや満足した」の合計



- ・「グルメ・食」や「お土産」は7割程が満足と評価しているのに対し、「体験プログラム・日帰りツアー」や「祭りやイベント」などの評価は総合満足度を大きく下回っている。
- ・満足度が高い「グルメ・食」と「お土産」は、優先的に活用すべき資源といえる。同様に「自然・景観」「宿泊施設」「交通手段」は優先活用資源に位置づけられるが、「グルメ・食」に比べ、さらなる満足度の向上が求められる。

## 平均消費額

24,251円 (2023年)

(2022年 : 21,853円)\*



・項目ごとの平均消費額は、「飲食代」5,850円、「物品購入代」8,394円、「交通費」4,047円、「施設利用料」4,485円、「体験プログラム」5,186円、「宿泊代」28,466円、「その他」9,994円。

## 総消費額

2,735億円 (2023年)

(2022年 : 2,835億円)\*



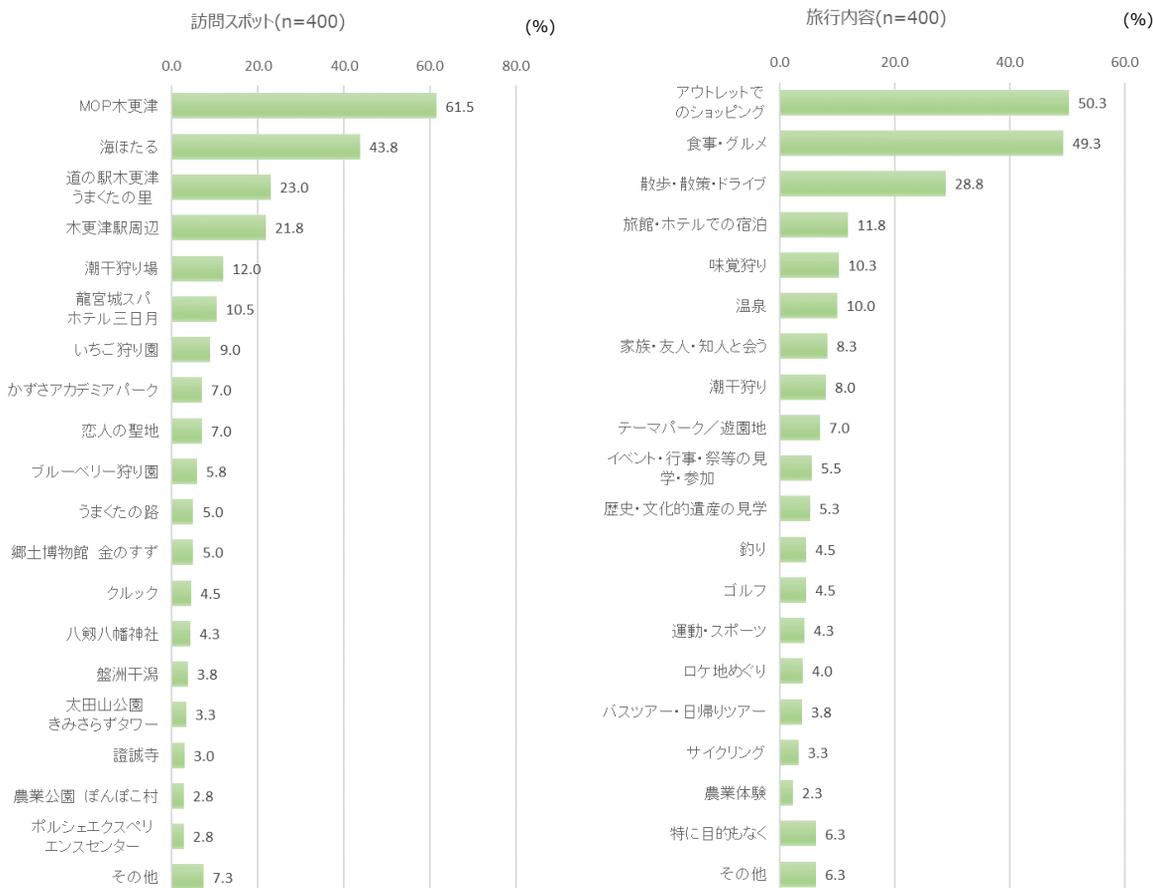
・内訳は、千葉県が約1,747億5千万円、東京都は約446億8千万円、神奈川県は約365億4千万円、埼玉県は約175億3千万円で、1都3県の合計は約2,735億円。

\*来訪者調査の対象エリア(1都3県)からの来訪者における消費額

## その他 訪問スポット／旅行内容

・来訪者の訪問スポットは「三井アウトレットパーク木更津(MOP木更津)」61.5%、「海ほたる」43.8%が他のスポットを大きく上回り、道の駅「木更津 うまくたの里」、「木更津駅周辺」が2割強で次いでいる。

・旅行内容は、「アウトレットでのショッピング」50.3%、「食事・グルメ」49.3%、「散歩・散策・ドライブ」28.8%の順となっている。



### ③ きさらづDMOにおけるKPIの検証結果

#### ●旅行消費額

一人あたりの旅行消費額が増加したことにより、旅行消費額総額も増加した。2022年度と比較すると宿泊費が約1.7倍に増加している。特に同行者別では「家族」の宿泊消費額が増加しており、家族での宿泊需要が増加している。

#### ●延べ宿泊者数

全体の宿泊者数は2022年度とほぼ同程度の数値である。インバウンドについては2022年度比2.5倍となっており、水際対策撤廃の影響により回復傾向にあるが、新型コロナウイルス感染拡大の影響のない2018年度の実績の約70%減となっている。

#### ●来訪者満足度

2022年度と比較して数値に増加は見られたが、ほぼ横ばいの状態。項目別ではお土産、グルメの満足度が高く、全体の満足度にも大きく影響している。

#### ●リピーター率

2022年度と比較して数値が減少している。同行者別では「ひとり」のリピーター率が増加し「友人・知人グループ」が減少した。新型コロナウイルス感染拡大の影響によりひとり旅が増加したものと考えられる。

#### ●観光入込客数

新型コロナウイルス感染拡大の影響のない2018年度の実績には届かないが、2022年度に引き続き回復傾向にある。

#### 必須KPI

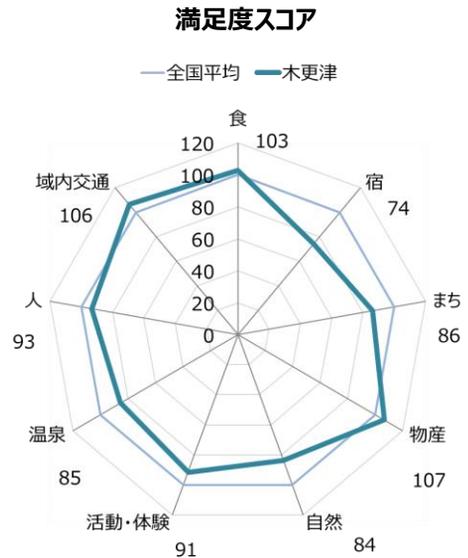
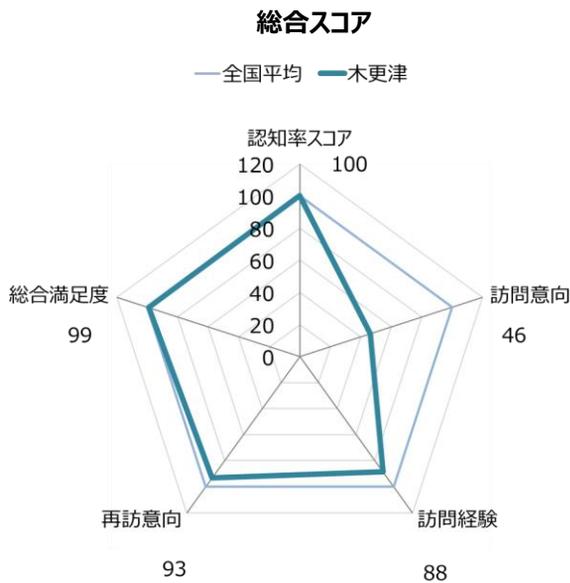
		R3年(2021年)		R4年(2022年)		R5年(2023年)	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績
旅行消費額 総額(億円)	全体	240.0	252.3	250.0	292.1	260.0	352.9
旅行消費額 一人当たり単価(円)	全体	17,000	19,616	17,000	21,853	17,000	24,251
延べ宿泊者数 (千人泊)	全体 (インバ ウンド)	580.0 (75.0)	417.4 (2.2)	600.0 (80.0)	612.9 (7.6)	600.0 (85.0)	625.8 (19.3)
来訪者満足度 (%)	全体	75.0	77.5	80.0	71.1	85.0	72.3
リピーター率 (%)	全体	90	87.6	90	87	90	85.5

#### その他KPI

		R3年(2021年)		R4年(2022年)		R5年(2023年)	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績
観光入込客数 (千人)	全体	20,000	14,759	20,000	15,797	20,000	16,067
WEBサイトアクセス 状況(回)	全体	122,000	125,557	127,000	167,311	131,000	207,595

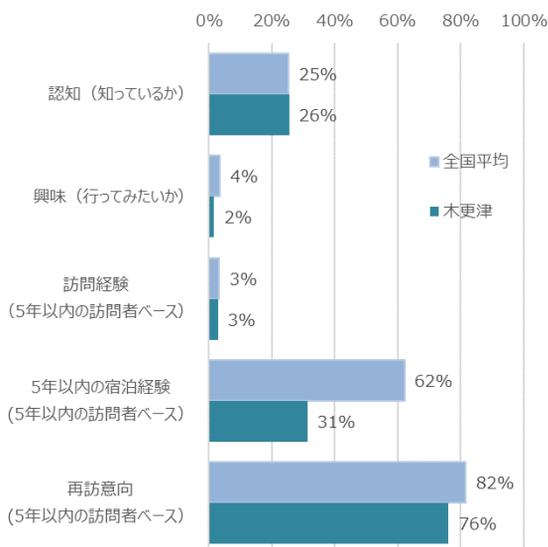
#### ④ パワーインデックス調査（2023年）

木更津市は、観光地の全国平均と同程度に認知はされているが、訪問意向が大きく下回っており、来訪意向を高めるためのプロモーション内容・手法の検討が必要である。また、市のイメージとしては、宿、まち、自然等で全国平均を大きく下回っており、地域の観光資源の情報が伝わっていないのが現状である。

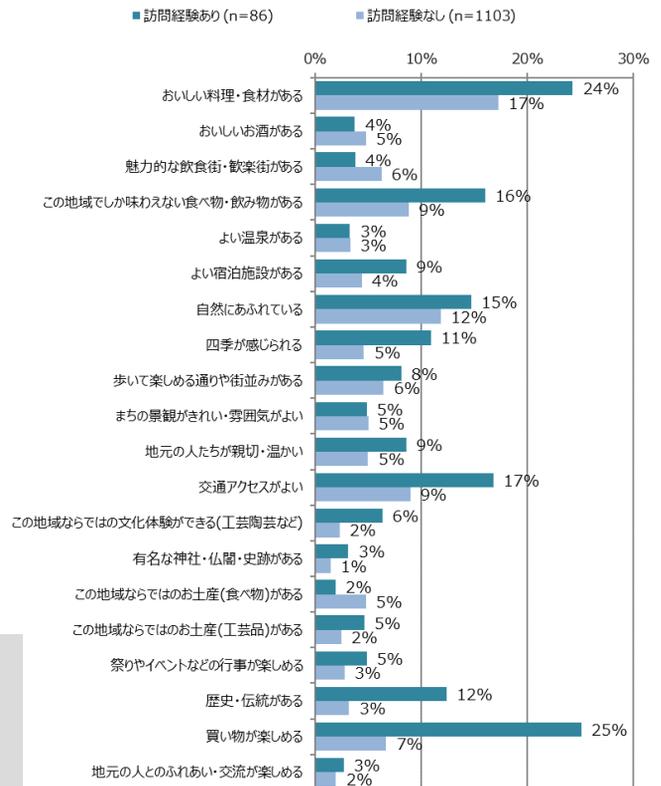


\* スコア：全国平均を100としたときの指数（100より高いほど、平均より指数が高いことを示す）

#### 基本指標の全国平均との比較



#### イメージ 来訪経験有無別



#### ※JTBパワーインデックス調査

JTB総合研究所が定期的の実施している全国240の観光地に関するファネル、イメージ、来訪者満足度等の基本指標を確認している調査。訪問経験者、未経験者、地域(当該観光地の都道府県)の比較、他の観光地との比較分析等が可能

### 第3章 施策の実施状況と観光の課題

# 第3章 施策の実施状況と観光の課題

## 1 第2次木更津市観光振興計画に掲げた施策の実施状況

「第2次木更津市観光振興計画」において掲げた各施策の実施状況は以下のとおりです。

### ①みなと・街なかの賑わい創出

施策名	取組内容	課題や今後の方向性
パークベイプロジェクトとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パークベイプロジェクトの一環として再整備した鳥居崎海浜公園への集客を図るため、民間事業者等と連携し、木更津ナチュラルバル+などのイベントを開催</li> <li>●回遊促進策として、街コンや、他のイベントにあわせ木更津バルを開催</li> </ul> <p>【みなと周辺でのイベント開催件数】 R2:7件、R3:9件、R4:5件、R5:3件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●富士見通りから港の更なる賑わい創出や集客を図るため、民間事業者等との連携による効果的な取組の拡大や回遊促進策を検討</li> <li>●空き店舗の活用などにより商業施設を誘致することで賑わいを創出</li> <li>●富士見通りの再整備を図るとともに良好な景観形成を誘導し、市の玄関口として新たな賑わいを創出</li> </ul>
クルーズ船の誘致	<ul style="list-style-type: none"> <li>●木更津港発着で、大型クルーズ客船「にっぽん丸」で伊勢神宮を巡るツアーが催行された</li> <li>●令和5年度には、同船の名古屋港発着のツアーで、木更津港への寄港を受け入れた</li> <li>●寄港時に、観光協会と連携して船内で本市PRブースを設置し、特産品を販売</li> </ul> <p>【誘致件数】 R2:0件、R3:0件、R4:0件、R5:1件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●引き続き、受け入れに係る岸壁の使用や環境整備について港湾関係者や県等と協議を実施</li> </ul>
各種イベントの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>●木更津駅周辺地区や木更津内港を中心に、「みなと」を活かした「木更津港まつり」や「木更津ナチュラルバル+」、「KISARAZU PARK BAY FESTIVAL」等の本市の魅力を体感できる各種イベントを開催</li> <li>●「木更津港まつり」は令和5年度に4年ぶりに開催し盛り上がりを見せた</li> </ul> <p>【イベント入込客数】 R2:6千人、R3:6千人、R4:5千人、R5:33万1千人、 ※R2～R4は新型コロナウイルス感染拡大の影響あり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●商工会議所や観光協会、民間事業者等と連携し、さらなる集客及び回遊性向上につながる取組を検討</li> <li>●「木更津港まつり」は、安全対策の強化、人件費・資機材費の高騰などから大会運営費が増加の一端をたどっており、財源の確保が課題</li> <li>●コンサート、アートイベントの開催など文化芸術活動と観光分野の連携</li> </ul>
ユニークベニューの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●MICEの誘致にあたり、市内のユニークベニューとして活用可能な施設の情報発信を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●引き続き、積極的なプロモーションに取り組むことで、MICEの誘致や本市の知名度向上につなげていく</li> </ul>
江戸情緒を感じる街づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観光庁の補助金事業を活用したインバウンド向け観光ツアーにおいて、お座敷体験を提供</li> <li>●多言語観光情報サイト「ガイドア」を活用し、インバウンドに向けた情報発信を強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●木更津芸者という独自の文化との連携を強化するとともに、江戸前文化を感じることのできるコンテンツの開発・情報発信</li> </ul>

## ②持続可能な地域資源の活用

施策名	取組内容	課題や今後の方向性
観光資源の発掘及び磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和4年度に観光協会の「木更津地元グルメ部会」が主体となり、市内17の飲食店が木更津産のブルーベリーを使ったメニューを開発・販売する「きさらづブルーベリーフェア」を開催</li> <li>●「木更津歴史さんぽ部会」は令和4年度に「木更津おさんぽまっぷ」を作成し、令和5年度にツアーを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●干潟観察会の有料化のように、既存の観光資源を見直し、磨き上げを行うことで新たな価値を付加し、ツーリズムの造成を検討</li> </ul>
自然との共生による関係人口等の拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>●きさらづDMOの教育旅行の受入、みなとまち推進協議会による木更津ナチュラルバル+を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●きさらづDMOが実施する、教育旅行における体験プログラムの拡充や、さらなるイベント等の開催を検討</li> </ul>
木更津ブランディングの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和5年度に観光協会が主導し、市内で無農薬栽培されたれんこんと、本市が推し進めているオーガニック有機米の米粉を使った「れんこんせんべい」を開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観光協会や大学等と連携して地域資源の発掘や価値化を検討</li> <li>●高品質で魅力ある地域資源を木更津の推奨品等（仮称：木更津Quality）として選定し、PRを行うことで市全体のブランド力を向上</li> </ul>
地域の魅力体験ツアーの造成	<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和5年度に回遊性の向上を目的とした東京湾クルーズとお座敷体験を組み合わせたツアーをきさらづDMO及び観光事業者と造成</li> <li>●令和6年度は木更津羽田間及び木更津・館山間をクルーズでつなぐツアーをきさらづDMO等と連携して造成</li> </ul> <p>【ツアー造成数】 R2:0件、R3:0件、R4:0件、R5:1件、R6:2件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ツアー催行人数に限りがあるため大きな誘客が望めない点や、回遊性の向上を図るためにバス等の二次交通の充実が課題</li> </ul>
里山・里海プログラムの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●きさらづDMO事業の教育旅行プログラム等において、金田みたて海岸での海苔すき体験、干潟観察、里山での収穫体験などを実施</li> </ul> <p>【教育旅行プログラム受入実績】 （件数、人数、売上額） R4:9件、916人、2,307,783円 R5:11件、987人、2,368,800円</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●きさらづDMOとの連携によるオーガニックツーリズムにかかる体験型プログラムの充実</li> <li>●ガイド人材の確保が課題のため、国・県の補助金の活用を検討</li> </ul>

## ② 持続可能な地域資源の活用

施策名	取組内容	課題や今後の方向性
ロケツーリズムの拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 映画やドラマ、CM、PVなどの誘致やロケーション撮影が円滑に進むよう環境を整え、令和5年度は66件を誘致し、県内1位の実績</li> </ul> <p>【市内撮影実績】                      (市全体、観光協会誘致、経済効果)                      R2:178件、45件、6,487,000円                      R3:206件、69件、27,506,500円                      R4:226件、62件、33,679,000円                      R5:201件、66件、20,254,000円</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 広域的な撮影にも対応できるよう、近隣市等との連携した取組を検討</li> <li>● 過去の撮影現場・撮影風景等を活用したロケツーリズムを推進</li> </ul>

## ③ 広域連携の拡充

施策名	取組内容	課題や今後の方向性
スポーツツーリズムの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先進地から情報収集を行い、近隣市との連携による、モデルコースの設定や拠点となるサイクルステーション整備に係る実証実験を実施</li> <li>● 市内の立ち寄り施設にサイクルラックを設置</li> <li>● 全国的な期間型サイクルイベントの開催や、近隣市を巡るコース設定したサイクルイベントの支援を実施</li> </ul> <p>【サイクルラック整備数】                      R2:4基、R3:9基、R4:0基、R5:0基                      【市内サイクルイベント開催数】                      R2:1件、R3:2件、R4:3件、R5:3件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自転車の活用を総合的、計画的に推進するため、自転車活用推進計画を策定</li> <li>● 近隣市と連携して、初心者から上級者までサイクリングを楽しめるようなツアーの造成及び効果的な情報発信を行う</li> <li>● 市営体育施設を適正に維持管理するとともに、利用の促進を図るための誘致を行う</li> </ul>
観光地域づくり法人(きさらづDMO)の充実化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● きさらづDMOと連携による、里山・里海などの地域資源を活かした体験プログラムの開発をはじめとした、魅力ある観光地域づくりに取り組んでいる</li> <li>● 令和3、4年度に木更津市、南房総市、きさらづDMOが連携し、木更津市から南房総市までのコースを設定した「房総半島サイクリングガイドブック」を作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● きさらづDMOが催行する教育旅行や地域循環共生圏の取組のガイドが不足しているため、ガイド人材を確保する体制の構築に取り組む</li> </ul>
アクアラインイースト観光連盟の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アクアラインイースト観光連盟のかずさ4市で連携し、SNSを活用した情報発信</li> <li>● R5年度に、君津地域振興事務所が、かずさ4市の観光振興及び魅力発信のために構築した「内房ドライブマップ」をアクアラインイースト観光連盟が運用していく方向で協議・調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 君津地域の広域的な観光振興をさらに推進していくため、アクアラインイースト観光連盟の加盟団体との連携を強化し、効果的なイベント開催の充実や情報発信を行う</li> <li>● 「内房ドライブマップ」の掲載内容の充実やスタンプラリーなどの周遊促進策の検討</li> </ul>

### ③ 広域連携の拡充

施策名	取組内容	課題や今後の方向性
公共交通機関等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和3年度にJR久留里線活性化協議会と連携し、久留里線沿いの観光スポットの周遊を目的としたサイクルイベントを開催</li> <li>● JR東日本と連携し、駅からハイキング&amp;ウォーキングイベントを開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● サイクルイベント開催にあたり、B.B.BASEを活用した仕組みづくりを検討</li> <li>● JR東日本と連携し、継続的にイベントを開催</li> </ul>

### ④ 効果的なプロモーションの確立

施策名	取組内容	課題や今後の方向性
MICE誘致の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>● JNTOやちば国際コンベンションビューローなど誘致機関を通して国内外へ広く宣伝活動を実施</li> </ul> <p>【国際会議開催件数】 R2:0件、R3:0件、R4:1件、R5:1件、R6:2件</p> <p>【国内会議開催件数】 R2:0件、R3:0件、R4:3件、R5:1件、R6:1件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ちば国際コンベンションビューローと連携し、高速バスやタクシー等を利用する際に補助金を拠出するなど補助体制を検討</li> <li>● ちば国際コンベンションビューローやMICE施設とともに、プレ・ポストコンベンションの充実や効果的な情報発信方法などを検討</li> </ul>
回遊性の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 観光案内所及びみたて海岸の2箇所でレンタサイクルを展開</li> <li>● 令和4年度に、紙媒体による「週末木更津計画」から、WEBサイト「木更津おでかけナビ」に運用を切替</li> <li>● 市内の大型商業施設等への来訪者に対し、観光スポットや飲食店、宿泊施設、イベント等の情報をタイムリーかつ効果的に発信</li> </ul> <p>【週末木更津計画の発行部数】 R2:43,000部 R3:43,000部</p> <p>【「おでかけナビ」利用ユーザー数】 R4: 3,457ユーザー R5:31,453ユーザー</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京湾アクアラインの変動料金制（ロードプライシング）が継続する中で、より市内への回遊を促進し、滞在時間を延ばすことのできる仕組みづくりを検討</li> <li>● 「道の駅 うまぐたの里」や宿泊型スポーツ施設、グランピング施設、大型商業施設などの観光資源を活用することにより、回遊性を促進</li> </ul>
首都圏から集客できるイベント等の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パークベイプロジェクトの一環で再整備した鳥居崎海浜公園で、「みなと」を活かしたイベント「KISARAZU PARK BAY FESTIVAL」や「木更津ナチュラルバル+」を開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 都心からの利便性や、里山・里海を持つ木更津市の特性を活かした魅力的な観光イベント等を検討し、近隣市とも連携した戦略的な観光プロモーションの実施</li> </ul>

#### ④効果的なプロモーションの確立

施策名	取組内容	課題や今後の方向性
ICTを活用した観光情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市ホームページやSNSを積極的に活用し、イベントや観光情報を発信</li> <li>●観光協会や商工会議所と連携し、WEBサイト「木更津おでかけナビ」の内容の充実を図り、タイムリーかつ効果的な情報発信を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●写真や動画などを用いて、SNS等多様なツールを活用した発信方法を検討</li> <li>●民間事業者や市民、木更津ふるさと応援団などと連携し、情報発信を強化</li> </ul>
木更津PR大使、木更津ふるさと応援団きさぽんの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「木更津港まつり」や「KISARAZU PARK BAY FESTIVAL」で、木更津ふるさと応援団を起用</li> <li>●クルーズ船来港や「KISARAZU PARK BAY FESTIVAL」、「木更津ナチュラルバル+」などの市内のイベントにきさぽんを積極的に活用しPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●引き続き、木更津PR大使や木更津ふるさと応援団、きさぽんをイベントや情報発信において積極的に活用</li> </ul>
旅行会社、メディア等の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県が主催する商談会に参加しプロモーションを実施</li> <li>●きさらづDMOでは、みたて海岸のトレーラーハウスを活用したワーケーションに係る企業向けモニターツアーを開催</li> </ul> <p>【商談会への参加実績】 R2:0回、R3:0回、R4:0回、R5:1回 R6:2回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県や成田空港活用協議会などが主催する商談会に積極的に参加し、プロモーションを実施</li> </ul>

#### ⑤おもてなし体制の充実

施策名	取組内容	課題や今後の方向性
インバウンド観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県やちば国際コンベンションビューローが主催する海外セールスへの参加や、オンライン商談会を通じてプロモーションを実施</li> <li>●観光交流等を目的とした覚書を締結しているベトナムダナン市を1つのターゲットとし、ダナン市日越文化交流フェスティバルへの参加や、現地旅行会社に対する観光セミナーを開催</li> <li>●きさらづDMOや事業者とともに観光庁の補助金を活用した観光ツアーの造成、多言語情報サイトに登録しインバウンド向けの環境整備を実施</li> </ul> <p>【海外セールスへの参加実績(国数)】 R2:0回、R3:0回、R4:1回(1)、 R5:3回(1)、R6:2回(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本構想に掲げるアジア諸国をターゲットとした効果的なプロモーションを検討</li> <li>●きさらづDMOや事業者と連携し、観光庁補助金を活用した観光ツアーの造成に向けた取組を継続</li> </ul>

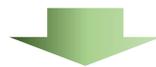
## ⑤おもてなし体制の充実

施策名	取組内容	課題や今後の方向性
観光ボランティア等の積極登用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●木更津みち案内人協会において、大型観光バスツアー受入に伴う観光案内、市内小学校の校外学習の対応、観光庁の補助金を活用した観光ツアーにおける連携を実施</li> <li>●会員減少及び高齢化への対策として、会員募集に向けた案内人体験ツアーを開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●引き続き、歴史のまち木更津の魅力を伝える語り部としての活動を支援</li> <li>●会員の減少及び高齢化に対し、新規の会員募集に努める</li> <li>●新型コロナウイルスの感染拡大により中止されていた、木更津クルーズファンクラブの活動の拡充に向けて、きさざつDMOとともに検討</li> </ul>
観光案内板等の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一般社団法人まちづくり木更津による通信環境（Wi-Fi）整備事業として令和2年度に駅西口（みなと口）及び東口（太田山口）にWi-Fi環境を整備</li> <li>●千葉県観光地魅力アップ整備事業補助金を活用し、令和5年度に木更津駅西口（みなと口）、巖根駅西口、太田山公園内の古くなった観光案内板の改修・掲載内容の更新</li> <li>●ベトナム語対応の観光パンフレットを作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道の駅「木更津 うまくたの里」の拡張整備に伴い、A I案内板の導入等観光PRの強化を検討</li> <li>●千葉県観光地魅力アップ整備事業補助金の活用による、整備を継続</li> </ul>
観光トイレ及び駐車場の情報発信と整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>●千葉県観光地魅力アップ整備事業補助金を活用し、観光トイレを新設</li> <li>●利用可能なトイレ情報を、千葉県観光物産協会の運営する「ちば観光ナビ」に掲載</li> </ul> <p>【県補助金を活用した観光トイレの整備】 R2:1件、R3:3件、R4:0件、R5:1件 R6:1件</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●千葉県観光地魅力アップ整備事業補助金の活用による、整備を継続</li> </ul>
訪日外国人及び海外への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多言語観光情報サイト「ガイドア」を活用した国内外への情報発信</li> <li>●観光庁の補助金を活用し、JNTO、羽田空港、海ほたるパーキングエリアと連携したツアーを造成し、海外からも募集を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●SNSやWEBサイト「木更津おでかけナビ」を活用し、旅ナカ情報を提供することにより利便性向上を図る</li> </ul>

## 2 木更津市の観光の現状分析

### SWOT分析

強み (S)	弱み (W)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●「オーガニックなまちづくり」持続可能な地域づくりを実践的に作り込んでいる</li> <li>●里山・里海の豊富な自然とその再生</li> <li>●地理的好条件を活かした首都圏からのアクセスの良さと広域的施策の展開可能性               <ul style="list-style-type: none"> <li>－アクアラインや高速道路をはじめとする交通輸送網</li> <li>－二つの国際空港（羽田・成田）とのアクセスの良さ</li> <li>－大型クルーズ船も寄航可能な港</li> </ul> </li> <li>●三井アウトレットパーク木更津や、龍宮城スパホテル三日月、KURKKU FIELDSなどの大型誘客施設</li> <li>●ロケの受入、放映の増加による露出の高さ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●木更津市内観光資源の認知度の低さ</li> <li>●多様な関係者を巻き込み、中長期的に観光地域づくりを推進する人材不足</li> <li>●アクアライン周辺の賑わいのある海岸部から旧市街や内陸部に向けた回遊性の悪さ</li> <li>●国内外観光客受け入れ体制における不足点               <ul style="list-style-type: none"> <li>－多言語対応</li> <li>－特産土産品</li> <li>－魅力ある体験コンテンツが少ない</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●パンデミック終了、円安等の影響による訪日外国人旅行者の増加</li> <li>●マイクロツーリズム、アウトドア体験（里山、里海体験）ニーズの高まり</li> <li>●オーガニックと親和性の高い自然志向、健康志向等の高まり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ後の観光様式の変容</li> <li>●大規模台風など異常気象による自然災害</li> <li>●新たなパンデミック、世界紛争、経済・社会変動の影響</li> <li>●他の観光地との競争激化（類似資源の多い千葉県内での競争）</li> </ul>
機会 (O)	脅威 (T)



### クロスSWOT分析

	強み	弱み
機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オーガニック等、サステナビリティへの関心の高まりを活かしたコンテンツの造成、積極的情報発信</li> <li>●外国人旅行者(ex.三井アウトレットパーク木更津来訪者(アジア系)/オーガニックなど関心度の高い層(欧米系))の誘致の仕掛けづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンセプトに沿い、ターゲットを想定した資源・コンテンツの造成と継続的プロモーション</li> <li>●プライオリティに沿った確実な受入環境整備</li> </ul>
脅威	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観光危機管理の検討</li> <li>●マイクロツーリズム、CRM*、関係人口づくりなどの検討</li> </ul> <p>*Customer Relationship Managementの略</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観光潮流の定期的な把握</li> <li>●来訪状況の定期的な把握・来訪者の分析</li> </ul>

### 3 木更津市の観光の課題

来訪者調査結果、オープンデータの分析等から木更津市の観光の課題を以下に整理します。

#### 木更津の認知・イメージ

- 木更津市の認知率は26%で、全国他の観光地の平均とほぼ同程度となっている。一方、5年以内の来訪者における宿泊経験率は31%で、全国平均62%を大きく下回っている。
- 木更津訪問経験者の木更津市のイメージは「買物が楽しめる」25%、「おいしい料理食材がある」24%、「交通アクセスがよい」17%、「この地域でしか味わえない食べ物・飲み物がある」、「自然にあふれている」15%等が上位に挙げられている。 ※パワーインデックス調査2023/P21参照

#### 来訪状況

- 観光入込客数は年々増加はしているものの、R4・R5年はきさらづDMOの目標値を下回っている。逆に、観光消費額はR5年で極端な上昇傾向がみられたが、要因等についての検証が必要である。リピーター率、来訪者満足度についてもきさらづDMOの目標値に達していない。
- 訪問スポットは、「三井アウトレットパーク木更津」が62%で最も多く、以下、「海ほたる」44%、道の駅「木更津 うまくたの里」23%、「木更津駅周辺」22%、「潮干狩り場」12%、「龍宮城スパホテル三日月」11%の順となっている。
- 来訪目的は、「アウトレットでのショッピング」50%、「食事・グルメ」49%、「散歩・散策・ドライブ」29%が多く、「旅館・ホテルでの宿泊」、「味覚狩り」、「温泉」が1割程度で次いでいる。

※きさらづDMOによるKPI検証結果/P18～20参照

#### その他弱み

- アクアライン周辺の賑わいのある海岸部から木更津駅周辺の中心市街地への回遊性の悪さ。  
＝中心市街地の魅力が伝わっていない／魅力ある体験コンテンツが少ない
- 多様な関係者を巻き込み、中長期的に観光地域づくりを推進する人材不足。
- 外国人旅行者に向けた対策の遅れ。  
ターゲット設定／プロモーション／コンテンツ開発／多言語対応等の受入環境整備
- 特産品、土産物などが知られていない。
- 二次交通が不十分。
- 「オーガニックなまちづくり」に基づく十分な観光施策が行われていない。

「オーガニックなまちづくり」を基軸に、以下の施策を行う。

- ☞本市が有する地域資源の価値を再評価し、独自の魅力や特性を効果的に発信
- ☞木更津駅周辺の中心市街地への回遊を促進するための施策の検討、連携体制の構築
- ☞市内での過ごし方提案など、宿泊率の向上を想定した施策の検討
- ☞インバウンドにおけるターゲット設定とプロモーション計画の検討、受入環境整備

## 第4章 基本目標と施策の方向性

## 第4章 基本目標と施策の方向性

### 1 基本目標

本市では、「オーガニックなまちづくりアクションプラン」に地域循環共生圏の方向性を取り入れ、持続可能なまちづくりとして、経済・環境・社会の三側面で取組を推進しています。具体的には、里山の再生、資源循環の促進、食・有機農業、再生可能エネルギー、里海の活用の5つのテーマに分け、それぞれの取組を行っています。

里山においては、「いっせんぼく」やコスモス・菜の花ロードなどのスポット、食・農ではブルーベリー摘みなど観光農園での収穫体験に毎年多くの人を訪れており、里海では、潮干狩りや簀立などの体験や、キャンプやワーケーション施設が整備されるなどの活用が進んでいます。

近年、地域における観光振興へのサステナビリティ視点の導入、自然・文化等の環境や地域住民の生活文化への配慮が世界的に求められるようになり、サステナブルツーリズムとして地域の自然環境や文化に対する旅行者の意識も高まっており、「オーガニックなまちづくり」という取組そのものが、地域の魅力の一つとなっています。

本計画では、このような「オーガニックなまちづくり」の取組と観光の潮流を踏まえ、本市の豊かな自然環境、地元の有機農産物、歴史・文化などの多様な資源を活用し、自然や地域文化とのつながりを重視した観光を目指すことで、観光客の満足度の向上を図る観光スタイルを「オーガニックツーリズム」と定義し、推進していきます。

#### (1)スローガン

### 自然とふれあう木更津時間 ～オーガニックツーリズムの推進～

#### (2)コンセプト

##### 1. 多様な地域資源の磨き上げによる付加価値化

第2次計画において整備を続けてきた、里海のアクティビティや観光・交流施設、里山の集客施設、観光農園での収穫体験、定例開催のイベントなどのコンテンツをさらに磨き上げるとともに、「面」として結び、的確なタッチポイントでターゲット層に情報提供することで、滞在時間を延ばし地域経済を活性化させます。

##### 2. 立地の優位性を活かした誘客の推進

都心部からのアクセス性や交通網など、本市の立地の優位性を最大限に活かし、インバウンドを含む誘客やMICEの誘致、ロケツーリズムなど、大都市圏からの誘客と来訪者の回遊性の向上を図ることで、地域の活性化につなげます。

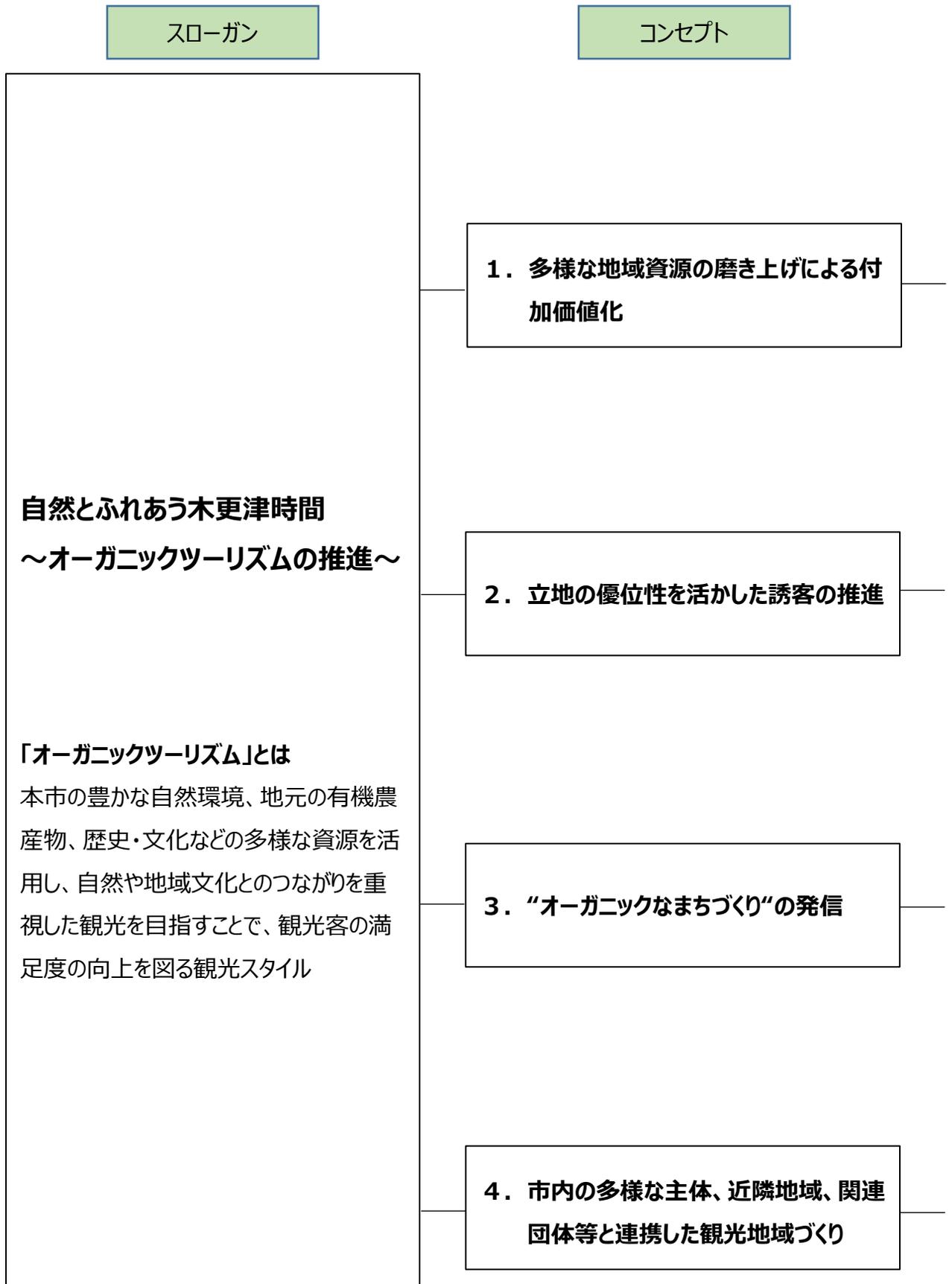
##### 3. “オーガニックなまちづくり”の発信

地域におけるサステナブルな取組に対する関心の高まりを背景に、「オーガニックなまちづくり」の取組そのものが地域の魅力となっています。この「オーガニックなまちづくり」の取組を、体験コンテンツや本市での過ごし方、関連イベントの実施などを通じて、市内外の人たちに感じてもらえるように発信していきます。

##### 4. 市内の多様な主体、近隣地域、関連団体等と連携した観光地域づくり

盤洲干潟などの保全、パークベイプロジェクトの取組との連携など、本市の観光推進においては、市民や多様な事業者の観光・交流に対する理解と参画が求められます。また、アートイベントやサイクルツーリズムなどにおける周辺自治体との連携、大型クルーズ船やMICEの誘致における関係団体との連携など、観光の推進において必要となる連携を強化します。

## 2 計画体系図



## 施策

## 主な取組

(1)里山・里海の保全と活用

①里山エリアを活用した体験や商品の開発  
②オーガニックツーリズムに造詣の深いガイドの育成  
③盤洲干潟の特性を活かした体験コンテンツの充実・利用促進  
④まさらづCAMP ORGANIC FIELD in みたての活用

(2)農林水産物の活用

⑤地元産農林水産物の収穫体験等イベントの推進  
⑥グリーンツーリズムの推進  
⑦広報媒体を活用した、集客施設等でのPR  
⑧潮干狩り場周辺の漁場環境の保全整備に係る支援

(3)各種イベントの開催・充実

⑨木更津港まつり  
⑩KISARAZU ORGANIC CITY FESTIVAL  
⑪KISARAZU PARK BAY FESTIVAL

(4)歴史・文化資源・芸術を活用した  
コンサート、アートイベントの実施

⑫コンサート・アートイベントの開催  
⑬郷土の歴史・文化・芸術に関する情報発信  
⑭指定文化財の多言語対応  
⑮神社・仏閣の観光案内  
⑯広域連携による観光誘客の推進

(5)道の駅「木更津 うまいたの里」の  
活用

⑰道の駅「木更津 うまいたの里」への誘客推進  
⑱道の駅「木更津 うまいたの里」の拡張整備

(6)回遊性の向上

⑲観光デジタルマップ「木更津おでかけナビ」の掲載内容充実  
⑳民間事業者と連携したドライブマップの作成やスタンプラリーの実施  
㉑内港周辺でのイベント開催  
㉒富士見通りの再整備  
㉓富士見通り等の活用

(7)インバウンドの推進

㉔アジア諸国をターゲットとしたプロモーション  
㉕補助金を活用した受入環境整備・コンテンツ造成の促進  
㉖指定文化財の多言語対応<再掲>

(8)MICE誘致推進

㉗関係団体と連携した誘致活動の実施  
㉘M I C E 誘致に係る補助制度の導入

(9)スポーツツーリズムの推進

㉙スポーツイベントにおけるPRの実施  
㉚市営体育施設の活用

(10)サイクルツーリズムの推進

㉛サイクルツーリズムの拡充  
㉜自転車活用推進計画の策定と推進

(11)みなとまち木更津の再生に向けた  
環境整備

㉝富士見通りの再整備<再掲>  
㉞吾妻公園文化芸術施設の拠点整備  
㉟中の島大橋改修工事

(12)効果的・効率的な情報発信

㉟SNSを活用した多様な主体による視覚的な情報発信  
㊱観光デジタルマップ「木更津おでかけナビ」の掲載内容充実<再掲>  
㊲情報発信の強化

(13)地域ブランディングの強化

㊳木更津Qualityの活用  
㊴特産品の情報発信

(14)映像支援事業の拡充

㊵撮影支援  
㊶撮影による経済効果の拡充

(15)内港周辺エリアの活性化

㊷富士見通り等の活用<再掲>  
㊸吾妻公園文化芸術施設の活用  
㊹中の島大橋、鳥居崎海浜公園のPR  
㊺中心市街地への新規出店の推進

(16)近隣市等との連携

㊻広域連携による情報発信の強化  
㊼観光プロモーションイベントへの参加・支援

(17)大型クルーズ船の誘致

㊽県や港湾関係者と協議・検討を継続  
㊾大型クルーズ船受入れ

(18)新たな交通インフラの活用

㊿立地的特性を活かした海路・空路の開拓  
㊽木更津飛行場の民間利用

## 第5章 観光振興へ向けた施策

# 第5章 観光振興へ向けた施策

## 1 多様な地域資源の磨き上げによる付加価値化

### (1) 里山・里海の保全と活用

👉 きさらづDMOと連携し、里山・里海等の地域資源を活用した観光コンテンツの造成・充実に図り、自然とふれあい、つながりを感じる機会を創出するとともに、観光資源である里山・里海の保全を図ることで、持続的な観光地域づくりを目指します。

#### ◆ 主な取組と指標、スケジュール

##### ① 里山エリアを活用した体験や商品の開発【財産活用課、観光振興課】

いっせんぼくの再整備やクロモジから作られる商品の開発など、里山エリアを活用した観光振興を図ります。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
	● 里山再生の取組（植生調査） ● 土産物の開発・商品化検討		● 環境整備 ● 販売		

##### ② オーガニックツーリズムに造詣の深いガイドの育成【観光振興課】

里山や里海での体験をより深く楽しみ、学ぶためのガイド人材を募集・育成することで、観光の質を高めます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
● ガイド募集に係るセミナー開催	● ガイド人材の募集・体制構築	● 制度運用開始			

##### ③ 盤洲干潟の特性を活かした体験コンテンツの充実・利用促進【観光振興課】

保全と活用で区域分けされた盤洲干潟では、活用する区域において干潟観察会のような体験を通じ、東京湾唯一の自然干潟の魅力に触れることで、観光資源としての重要性を感じてもらいます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
干潟観察会の参加者数 395人 (R5)	● 干潟の保全・活用に係る補助金の検討 480人	● 施設整備 530人	● 維持管理 580人	640人	700人

##### ④ きさらづCAMP ORGANIC FIELD in みたての活用【観光振興課】

金田みたて海岸を活用した「きさらづCAMP」の利用を推進するとともに、ワーケーションなど様々なライフスタイルに合わせた環境の充実に図ることで、利用者の満足度の向上につなげます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
	● 満足度向上測定のための体制構築	● 満足度スコア 80%以上			

## (2) 農林水産業の活用

☞ 市民や観光客が気軽に収穫体験を楽しむことができる観光農園や自ら生産を体験できる市民農園の活用を推進するとともに、農山漁村滞在型旅行（グリーンツーリズム）を実施し、都市と農村の交流を促進します。また、潮干狩り、簀立て、海苔すきなど里海を活用した体験メニューをPRし体験してもらうことで、リピーターの確保につなげるとともに、観光漁業の推進を図ります。

### ◆ 主な取組と指標、スケジュール

#### ⑤ 地元産農林水産物の収穫体験等イベントの推進【農林水産課】

観光農園と連携して地元産農林水産物の収穫体験を行うことで、来訪した人々へ地域の文化や取組を知ってもらうとともに、地域の協力意識の向上を図ります。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
イベント開催数 3回	●2回以上				

#### ⑥ グリーンツーリズムの推進【農林水産課、観光振興課】

里山・里海などの地域資源を活かした農業や漁業体験を通じて、都市部の人々と交流を図ることで、文化や自然環境など地域の魅力発信につなげます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
観光農園（いちご・ブルーベリー）入園者数 62,675人	65,000人	69,000人	72,000人	76,000人	79,000人
農泊の実施数 (0回)	●1回以上				

#### ⑦ 広報媒体を活用した、集客施設等でのPR【観光振興課】

漁業協同組合と共同で、潮干狩り場のポスターやチラシ等の広報媒体を制作しPRしていきます。また、集客力のある観光施設や商業施設等と連携し、潮干狩りに興味を持ってもらえるイベントを企画・実施するとともに、SNSも活用することで入場者の増加につなげます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●広報、パンフレット配布、SNSでの発信、各種イベントでのPR					
潮干狩り場入場者数 14.3万人	17.2万人	20万人	20.6万人	21.2万人	21.8万人

#### ⑧ 潮干狩り場周辺の漁場環境の保全整備に係る支援【農林水産課】

アサリの漁獲量を確保していくため、水産資源害敵生物の食害対策を行うとともに、環境改善を図るため、養殖施設の整備に係る取組を、国や県の補助金を活用し支援していきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●アサリ稚貝の育成環境整備					
●食害対策に係る支援					
アサリの年間生産量 141トン (R5年度)	141トン	141トン	141トン	141トン	141トン

### (3)各種イベントの開催・充実

👉 木更津港まつり、KISARAZU ORGANIC CITY FESTIVAL、KISARAZU PARK BAY FESTIVAL などの大型イベントを通じて、木更津内港や木更津駅周辺の中心市街地への誘客を図ります。

#### ◆主な取組と指標、スケジュール

##### ⑨木更津港まつり【資源循環推進課、観光振興課】

約33万人以上が来場する本市最大のイベントを、今後も持続可能な大会としていくために、安全対策や財源確保とともに、環境負荷低減の取組を推進します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
来場者数 334,500人	336,500人	338,500人	340,500人	342,500人	344,500人
ごみのリサイクル率 9.4%	9.5%	9.6%	9.7%	9.8%	9.9%

##### ⑩KISARAZU ORGANIC CITY FESTIVAL【オーガニックシティ推進課】

「オーガニックシティきさらづ」を象徴するイベントとして継続的に開催することで、本市の認知度向上につなげます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
来場者数 28,000人	33,000人	37,000人	40,000人	43,000人	46,000人

##### ⑪KISARAZU PARK BAY FESTIVAL【観光振興課】

プレジャーボートやヨットの乗船体験など海をテーマとしたイベントの開催により、木更津港内港の活性化を図ります。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
来場者数 670人	1,000人	1,100人	1,200人	1,300人	1,400人

## (4) 歴史・文化資源・芸術を活用したコンサート、アートイベントの実施

- ☞ プロの音楽家や芸術団体を招いたコンサートやアートイベントを開催するとともに、千葉県誕生150周年記念事業の一環として実施した「百年後芸術祭-内房総アートフェス-」を継続開催に向け取り組んでいくことで、郷土の歴史や文化、芸術に関する情報発信を強化し、観光誘客を促進していきます。

### ◆ 主な取組と指標、スケジュール

#### ⑫ コン서트・アートイベントの開催【文化課】

プロの音楽家や芸術団体を招いたコンサート等を開催し、優れた芸術文化に触れる機会を提供します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
コンサート・アートイベント 来場者数					
1,078人 (R5年度)	1,200人	1,300人	1,400人	3,500人	4,000人

#### ⑬ 郷土の歴史・文化・芸術に関する情報発信【郷土博物館金のすず】

博物館に保管している文化財や地域資源等を、展覧会や講演会などを開催し紹介していくとともに、ガイドボランティアによる詳しい解説により観光客の満足度の向上につなげます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
郷土博物館金のすず 入館者数					
10,653人 (R5年度)	11,500人	12,000人	12,500人	13,000人	13,500人

#### ⑭ 指定文化財の多言語対応【文化課】

指定文化財に設置している解説用看板に二次元コードを掲出し、多言語（英語・中国語・韓国語）による解説を閲覧できるようにしていくことで、外国人観光客の利便性の向上につなげていきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
二次元コード案内看板 設置数					
6箇所 (R5年度)	7箇所	8箇所	9箇所	10箇所	11箇所

### ⑮神社・仏閣の観光案内【観光振興課】

木更津みち案内人協会が作成した市内の名所を巡るモデルコースの紹介や、本市の歴史や文化、神社仏閣を木更津みち案内人が解説付きで観光案内することで、観光誘客につなげます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●木更津みち案内人による観光案内・PR					
みち案内人利用者数 2,176人（R5年度）	2,280人	2,380人	2,480人	2,580人	2,680人

### ⑯広域連携による観光誘客の促進【観光振興課】

令和5年度から令和6年度に、千葉県誕生150周年記念事業の一環として開催した「百年後芸術祭-内房総アートフェス-」について、県や関係市と協議を重ね、広域連携により定期開催していくことで地域の魅力を発信し、地域活性化につなげていきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
百年後芸術祭 -内房総アートフェス-開催 (R5、6年度)	●芸術祭開催に向けた準備				
	●企画発表会、イベント実施				
	●芸術祭開催、効果検証				
	●継続開催に向けた協議・検討				

## (5)道の駅「木更津 うまくたの里」の活用

☞ 年間40万人以上の方々にご利用される里山エリアの観光拠点として、特産品の販売などによる地域活性化に加え、デジタルサイネージ等の情報発信機能の充実を検討し、当施設の更なる魅力向上及び回遊性の向上に取り組みます。

### ◆主な取組と指標、スケジュール

#### ⑰道の駅「木更津 うまくたの里」への誘客推進【農林水産課、観光振興課】

道の駅を地域住民や生産者と観光客が集い交流する拠点として活用し、農業振興及び観光振興を図ります。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
来場者数 47万人 (R5年度)	55万人	60万人	62万人	64万人	66万人

#### ⑱道の駅「木更津 うまくたの里」の拡張整備【農林水産課、観光振興課】

当施設のさらなる魅力向上に向けた拡張整備に合わせ、観光情報の発信拠点としての機能強化を検討します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●駐車場の拡張 →</li> <li>●AIによる観光案内の導入検討 →</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設の拡張整備検討 →</li> </ul>			

## 2 立地の優位性を活かした誘客の推進

### (6) 回遊性の向上

- 海ほたるパーキングエリアや大型商業施設などからの回遊性を向上させるため、観光デジタルマップ「木更津おでかけナビ」や、観光パンフレット等を活用し、市内の観光情報をPRしていくとともに、内港周辺におけるイベントの継続開催に加え、富士見通りの再整備の進捗状況に合わせイベント等の開催をすることで、誘客につなげます。

#### ◆ 主な取組と指標、スケジュール

##### ⑱ 観光デジタルマップ「木更津おでかけナビ」の掲載内容充実【観光振興課】

「木更津おでかけナビ」は、デジタルマップ上に観光スポットや飲食店、宿泊施設を画像ピンで一目でわかるように表示でき、現在地から目的地までのルート案内機能や渋滞情報も備えており、観光スポットやイベント情報等の掲載内容を更に充実していくことで、観光客の利便性向上を図り、観光誘客を促進します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
サイトのアクセス数 267,002件 (R5年度)	268,000件	268,500件	269,000件	269,500件	270,000件
観光情報掲載スポット数 204件 (R5年度)	215件	220件	225件	230件	235件

##### ⑳ 民間事業者と連携したドライブマップの作成やスタンプラリーの実施【観光振興課】

民間事業者がパンフレットを制作する際、「まちなか」情報を掲載したドライブマップ等の制作を働きかけるとともに、集客施設等と連携しスタンプラリーを実施することで、回遊促進を図ります。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
● 掲載内容検討・実施 スタンプラリー実施件数 3件 (R5年度)	● 3件以上				

##### ㉑ 内港周辺でのイベント開催【観光振興課】

みなとの魅力を活かした「木更津港まつり」や「KISARAZU PARK BAY FESTIVAL」等の各種イベントを開催することで、観光誘客を図るとともに、内港周辺の賑わい創出につなげます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
● 「みなと」の魅力を活かした各種イベントの実施					

## ②富士見通りの再整備【産業振興課、土木課】

パークバイプロジェクトの一環として、木更津駅と港をつなぐ富士見通りの無電柱化や歩道再整備を行い、居心地が良く、歩きたくなる空間づくりを行うことで、観光誘客を図ります。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●無電柱化 →					
●アーケード撤去 →					
●歩道再整備 →					
		●車道舗装 →			

## ③富士見通り等の活用【地域政策室、観光振興課、管理用地課】

再整備される富士見通りの活用や、木更津飛行場周辺まちづくり基本構想に掲げる4つの重点地区（江川総合運動場周辺・吾妻公園・木更津駅周辺・旧庁舎跡地）を基軸とした回遊性向上の仕掛けづくりを、民間事業者等と連携しながら検討していきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●歩行者利便増進道路（ほこみち）指定に係る協議・調整 →					
●民間事業者等と活用検討 →					
		●イベント等での活用 →			

## (7)インバウンドの推進

👉 ターゲットを絞り込んだプロモーションを行うとともに、国等の補助金を活用した受入環境整備やコンテンツ造成を行い、インバウンドを推進します。

### ◆主な取組と指標、スケジュール

#### ㊤アジア諸国をターゲットとしたプロモーション【観光振興課】

本市を訪れる訪日外国人のうち、大半を占めるアジア諸国を主なターゲットとして、本市固有の地域資源を活かし、近隣地域との差別化を図ったプロモーションを実施します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
外国人宿泊者数 17,053人 (R5年度) [19,373人]	20,700人 [23,400人]	22,800人 [25,700人]	25,100人 [28,300人]	27,600人 [31,100人]	30,400人 [34,200人]
上段：アジア諸国 下段：全体					

#### ㊤補助金を活用した受入環境整備・コンテンツ造成の促進【観光振興課】

国や県の補助金を活用し、観光案内看板の多言語対応などの受入環境整備に加え、地域資源を活用したコンテンツ造成を図り、インバウンドの誘致を促進します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
整備件数 1件 (R5年度)	● 1件以上				
	コンテンツ造成 ● 1件以上				

#### ㊤指定文化財の多言語対応【文化課】<再掲>

指定文化財に設置している解説用看板に二次元コードを掲出し、多言語（英語・中国語・韓国語）による解説を閲覧できるようにしていくことで、外国人観光客の利便性の向上につなげていきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
二次元コード案内看板 設置数 6箇所 (R5年度)	7箇所	8箇所	9箇所	10箇所	11箇所

## (8) MICE 誘致推進

👉 国際会議観光都市に認定されている強みを活かし、国際会議を始めとするMICEについて、観光庁やJNTO、ちば国際コンベンションビューロー等の関係団体と連携して、豊かな自然環境や「オーガニックなまちづくり」等の特色を活かした誘致・支援を行い、地域経済の活性化につなげます。

### ◆ 主な取組と指標、スケジュール

#### ㉗ 関係団体と連携した誘致活動の実施【観光振興課】

観光庁やJNTO、ちば国際コンベンションビューロー等と連携し、本市の特色を積極的にPRして誘致を推進します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
国際会議の開催件数 7件	● 7件以上			● 8件以上	

#### ㉘ MICE誘致に係る補助制度の導入【観光振興課】

会議場までの公共交通への補助やグリーンMICE補助など、MICE開催を支援する補助制度の導入することで、誘致につなげます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
	● 補助制度検討	● 補助金要綱整備・財源確保	● 制度運用開始		

## (9) スポーツツーリズムの推進

☞ 関連団体などと連携し、各種スポーツイベントや競技大会を誘致するとともに、市営体育施設等を活用したスポーツツーリズムを推進します。

### ◆ 主な取組と指標、スケジュール

#### ②9 スポーツイベントにおけるPRの実施【スポーツ振興課、観光振興課】

ちばアクアラインマラソンや木更津トライアスロンをはじめ、民間が主催するスポーツイベント等において、本市の観光PRを行うとともに、市内飲食店や観光施設の利用の促進を図ります。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
ちばアクアラインマラソンでのPR ●実施		●実施		●実施	
木更津トライアスロン等でのPR ●実施					

#### ③0 市営体育施設の活用【スポーツ振興課】

江川総合運動場や市民体育館などの市営体育施設を活用し、合宿や大会への参加など宿泊を伴う利用者を誘致します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
合宿・大会での利用件数 4件	5件	6件	7件	8件	9件

## (10) サイクルツーリズムの推進

👉 近隣市を巡る広域的なサイクルイベントの実施や、イベントの支援をすることで、自転車でしか気が付くことのできない地域の特色やサイクリングの魅力を広く発信することで、誘客につなげます。

### ◆ 主な取組と指標、スケジュール

#### ③① サイクルツーリズムの拡充【観光振興課】

自転車に乗ること自体を楽しむことに加え、地域の資源や魅力等を楽しむことを促すことで、地域の活性化につながります。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
● ツールド・ちば等のサイクルイベント支援・実施					
	● サイクルラック等設置に係る補助制度検討				
		● 補助制度運用開始			

#### ③② 自転車活用推進計画の策定と推進【土木課、関係課】

自転車通行空間の整備促進をはじめ、市民の健康づくりやスポーツの振興、安全な利用促進など、多面的・総合的な検討を進め、自転車活用推進計画を策定します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
木更津市自転車活用検討委員会(庁内会議)の開催	● 木更津市自転車活用推進委員会(附属機関)の開催				
	● 自転車活用推進計画策定				
		● 推進			

## ( 1 1 )みなとまち木更津の再生に向けた環境整備

官民が連携して木更津発展のシンボルである「みなと」を活かしたまちづくりを進め、都市公園の魅力を高める整備を行うことで、賑わいや活力に満ちた「みなとまち木更津」の再生を目指す「パークベイプロジェクト」を推進し、観光客の中心市街地への来訪機会を高め、回遊性の向上を図るための環境を整備します。

### ◆主な取組と指標、スケジュール

#### ③富士見通りの再整備【産業振興課、土木課】 <再掲>

パークベイプロジェクトの一環として、木更津駅と港をつなぐ富士見通りの無電柱化や歩道再整備を行い、居心地が良く、歩きたくなる空間づくりを行うことで、観光誘客を図ります。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●無電柱化					
●アーケード撤去					
	●歩道再整備				
		●車道舗装			

#### ④吾妻公園文化芸術施設の拠点整備【地域政策室】

吾妻公園に、ホール・図書館・中央公民館を複合した文化芸術施設や大屋根広場、交通公園、遊具エリアなどを再整備するとともに、公園内の一部区間へのカフェやドッグランなど民間による集客施設の誘致を推進します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●基本設計	●実施設計	●建設工事			
●民間活力導入に向けたサウンディング型市場調査	●民間集客施設整備の公募準備	●事業者公募	●設計・工事		

#### ⑤中の島大橋改修工事【市街地整備課】

鳥居崎海浜公園と中の島公園を結ぶ、「恋人の聖地」として認定されている中の島大橋を健全な状態に維持するため、長寿命化工事を実施することで、潮干狩り等の観光客等の安全性や利便性の確保に努めます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●欄干整備工事		●塗装工事	●舗装工事	●耐震補強工事	

※：工事期間は、毎年10月～3月（予定）

### 3 “オーガニックなまちづくり”の発信

#### (12)効果的・効率的な情報発信

☞ 観光スポットの写真や動画など、直感的な媒体を用いて、SNS等でタイムリーな情報発信を行い、多様なツールをターゲットに合わせて活用していきます。さらに、本市の魅力効果を効果的・効率的に発信していくため、民間事業者等と連携し情報発信を強化していくことで、観光誘客につなげます。

#### ◆主な取組と指標、スケジュール

③⑥SNSを活用した多様な主体による視覚的な情報発信【シティプロモーション課、観光振興課】  
市だけでなく、市民や木更津ふるさと応援団、本市にかかわる様々な人などが、本市の魅力ある写真や動画を積極的に活用しSNSに投稿することで、本市の観光資源の認知度向上や誘客につなげていきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
発信件数 56件（R5年度）	60件	64件	68件	72件	76件

③⑦観光デジタルマップ「木更津おでかけナビ」の掲載内容充実【観光振興課】<再掲>  
「木更津おでかけナビ」は、デジタルマップ上に観光スポットや飲食店、宿泊施設を画像ピンで一目でわかるように表示でき、現在地から目的地までのルート案内機能や渋滞情報も備えており、観光スポットやイベント情報等の掲載内容を更に充実していくことで、観光客の利便性向上を図り、観光誘客を促進します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
サイトのアクセス数 267,002件（R5年度）	268,000件	268,500件	269,000件	269,500件	270,000件
掲載スポット数 204件（R5年度）	215件	220件	225件	230件	235件

③⑧情報発信の強化【産業振興課、観光振興課、都市政策課】  
交通利便性の高いインターチェンジ周辺地区の土地を活用し、人の流れを生み出す賑わいのある交流拠点の施設整備を民間事業者等と連携し推進していくとともに、既存施設には情報発信コーナーの設置などを働きかけていくことで、情報発信機能を強化していきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●企業誘致、情報発信機能の強化					
	●企業誘致方針の見直し・検討				
			●新たな方針に基づいた企業誘致、情報発信機能の強化		

### ( 1 3 ) 地域ブランディングの強化

☞ 既存の地域資源の価値を見直して再評価するとともに、地域の持つ独自の魅力や特性を効果的に発信し、認知度の向上につなげます。

#### ◆ 主な取組と指標、スケジュール

③⑨木更津Qualityの活用【オーガニックシティ推進課、シティプロモーション課、産業振興課、観光振興課】  
オーガニックなまちづくりの理念に沿った高品質で魅力ある資源（木更津ならではのモノ・コト）を「木更津Quality」としてP Rすることで、市全体のブランド力の向上を図ります。また、購入が可能なモノについては、ECサイト内で電子通貨など多様な決済手段を用いて購入できるようなシステムの導入を検討します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
● 基盤づくり	● 選定 ● プロモーション	● ツーリズム造成 ● 土産物開発			
	● ECサイト検討				

#### ④⑩特産品の情報発信【農林水産課】

本市の特産品である、米や梨、ブルーベリー、いちごなどの農産物や加工品の高付加価値化を図るとともに、多様な販路の開拓や確保に向けて情報発信を行うことで、認知度の向上につなげます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
「アグリパーク木更津」 での情報発信回数 2回	3回以上	4回以上	5回以上	6回以上	7回以上

## (14) 映像支援事業の拡充

☞ 木更津ロケーションサービスと連携し、立地の優位性を活かした、映像制作活動の誘致及び支援を通じ、地域振興及び地域経済の活性化を図ります。

### ◆ 主な取組と指標、スケジュール

#### ④ 撮影支援【観光振興課】

本市で映画やCM等の撮影を行うことにより広くPR効果が見込まれることから、撮影件数を増加させ、県内最多を継続します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
● 撮影件数 県内1位					
撮影件数 201件 (R5年度)	210件	215件	220件	225件	230件

#### ④ 撮影による経済効果の拡充【観光振興課】

撮影に伴う事業者の滞在費や飲食費は、地域への経済効果を生み出すことから、積極的な誘致を推進します。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
直接経済効果 20,254,000円 (R5年度)	21,200,000円	21,700,000円	22,200,000円	22,700,000円	23,200,000円

## (15)内港周辺エリアの活性化

- ☞ 民間事業者等と連携し、みなとを活用したイベントを開催していくとともに、再整備している木更津駅と港を結ぶ、「みなとまち木更津」のシンボルロードである富士見通りや、吾妻公園文化芸術施設を活用することで、中心市街地への回遊性を向上させ、観光誘客を促進します。

### ◆主な取組と指標、スケジュール

#### ④3富士見通り等の活用【地域政策室、観光振興課】<再掲>

再整備された富士見通りの活用や、木更津飛行場周辺まちづくり基本構想に掲げる4つの重点地区（江川総合運動場周辺・吾妻公園・木更津駅周辺・旧庁舎跡地）を基軸とした回遊性向上の仕掛けづくりを、民間事業者等と連携しながら検討していきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●歩行者利便増進道路（ほこみち）指定に係る協議・調整					
●民間事業者等と活用検討		●イベント等での活用			

#### ④4吾妻公園文化芸術施設の活用【地域政策室、観光振興課】

吾妻公園文化芸術施設の活用に向けて、民間事業者等と連携しイベント等の開催や集客に向けた取組を検討し、活用していきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●民間事業者等と活用検討				●イベント等での活用	

#### ④5中の島大橋、鳥居崎海浜公園のPR【観光振興課】

「恋人の聖地」として認定されている「中の島大橋」や、鳥居崎海浜公園周辺への観光誘客を図るため、関係団体等と効果的な施策を検討しPRしていきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
イベント開催件数 3件（R5年度）	7件	7件	7件	7件	7件

#### ④6中心市街地への新規出店の推進【産業振興課】

空き店舗を活用した出店への店舗改修費用の補助や、産業・創業支援により新規出店を推進することで、観光客の滞在時間の延長や観光消費の拡大につなげます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
新規出店数 4件（R5年度）	5件	5件	5件	5件	5件

## 4 市内の多様な主体、近隣地域、関連団体等と連携した観光地域づくり

### (16) 近隣市等との連携

- ☞ アクアラインイースト観光連盟やちばプロモーション協議会等と連携しプロモーション活動等を実施していくことで観光誘客を推進していきます。

#### ◆ 主な取組と指標、スケジュール

##### ⑦ 広域連携による情報発信の強化【観光振興課】

アクアラインイースト観光連盟で運用しているXの活用や、観光デジタルマップ「千葉内房ドライブマップ」に本市の観光情報を掲載することで、観光客の周遊・滞在時間延長を図り、地域活性化につなげていきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●かずさ4市共有の情報発信プラットフォーム（X）の運用支援					
	●「千葉内房ドライブマップ」の運用支援				

##### ⑧ 観光プロモーションイベントへの参加・支援【観光振興課】

県や関係団体等の主催による観光プロモーションイベントへの参加・支援を行うことで、市外へのPRを効率的に行っていきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
イベント参加件数 1件（R5年度）	2件	2件	2件	2件	2件

## (17)大型クルーズ船の誘致

☞ 県が計画している、クルーズ船受入れのための拠点整備の動向を注視していくとともに、早期整備を働きかけ、商談会等へ参加することで、運航会社へ木更津港をPRし寄港誘致を推進します。また、港湾・地域関係者と連携して受入れ体制を構築し、地域経済の波及効果につなげていきます。

### ◆主な取組と指標、スケジュール

#### ④9県や港湾関係者と協議・検討を継続【産業振興課、観光振興課】

大型クルーズ船の受入可能な環境整備を県とともに推進していくとともに、港湾関係者等と協議を進めることで、寄港に向けた取組を推進していきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●クルーズ船受入れに係る協議・検討					
→					

#### ⑤0大型クルーズ船受入れ【観光振興課】

大型クルーズ船の入港・寄港を促進していくため、商談会への参加や運航会社へ木更津港のPRを行っていきます。また、入港時には、受入環境を整備し、おもてなしイベント等を開催することで、リピーターの確保につなげていきます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
大型クルーズ船 受入件数 0件	1件	1件	1件	1件	1件

## (18) 新たな交通インフラの活用

- ☞ 鉄道・高速バスといった既存の公共交通によるアクセスに加え、東京国際空港(羽田空港)からの近接性や防衛施設の立地など地域特性を活かし、海路や空路による新たな交通インフラの活用を関係機関や民間事業者と連携し協議・検討を進めることで、渋滞対策や観光客の利便性向上につなげます。

### ◆ 主な取組と指標、スケジュール

#### ⑤ 立地的特性を活かした海路・空路の開拓【観光振興課、関係課】

都心部から東京湾の対岸に位置する本市の立地的特性を活かし、都心部と本市をつなぐ新たな交通手段として海路及び空路の活用を検討することで、観光客の利便性向上に加え新たな魅力の創出を図ります。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●連携事業者とのクルーズ船の運航（定期運航）に向けた協議・検討					
●クルーズ船の運航（臨時運航）					
●空路の調査・研究					

#### ⑥ 木更津飛行場の民間利用【企画課】

陸上自衛隊木更津駐屯地の約1,800mの滑走路を有する木更津飛行場を活用し、地域振興を推進するため、防衛省や国土交通省などの関係省庁と協議・検討を進めます。

R6年度 2024年度 実績	R7年度 2025年度	R8年度 2026年度	R9年度 2027年度	R10年度 2028年度	R11年度 2029年度
●関係省庁と協議・検討					

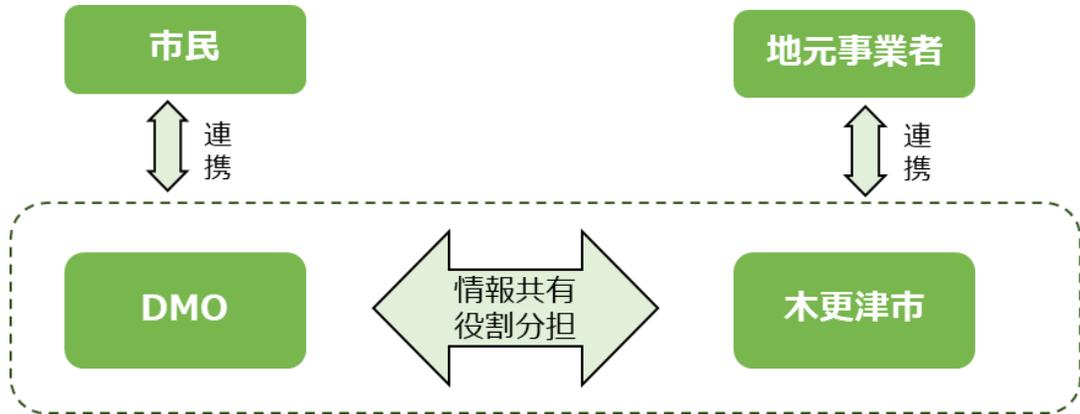
## 第6章 計画の推進体制

# 第6章 計画の推進体制

## 1 推進体制

「オーガニックなまちづくり」を基軸とした、計画の推進及び観光振興に取り組むために、きさらびDMOとともに、観光関連事業者のみではなく、市民や商工事業者等の多様な関係者の参画を促し、合意形成を図りながらそれらの業務支援を行い、地域が一体となった観光地域づくりに取り組みます。

また、きさらびDMOが観光まちづくりの司令塔としてその機能を最大限発揮できるよう活動を支援するとともに、計画の進捗管理・効果検証を行いながら、本計画に掲げた諸施策を推進していきます。



## 2 各主体の役割分担

### ①市民

観光関連施策への積極的な市民参加により、市民がホスト・ゲストとして楽しめる観光地域づくりを行うことで、シビックプライドの醸成と、来訪者へのホスピタリティの向上を図る。

### ②地元事業者

自らの創意工夫及び自助努力を基に、経営基盤の安定化、人材育成及び、従業員の福利厚生 の充実に努めるとともに、「オーガニックなまちづくり」に即した事業展開を図り、観光地域づくりを行う。

また、旅行者・来訪者を意識した質の高いサービスやコンテンツ、商品の提供やイベントなどを実施し、来訪者の満足度を高める。

- 地域内連携による、木更津市らしい商品の開発、販売
- 観光協会との連携による体験コンテンツなどの開発
- ショッピング施設のハブ機能の強化による、滞在時間の延長など
- 「オーガニックなまちづくり」につながる収穫体験・農業体験コンテンツの充実 など

### ③きさらびDMO

観光まちづくりの司令塔として、以下の取組を行う。

- 市内の多様な事業者との連携を図り、地域としての観光振興を推進する
- マーケティング視点によるコンテンツ造成、プロモーション展開を行い、面としての観光地域の魅力づくりを推進する
- きさらびDMOの施策展開の効果を定期的に測定・検証し、事業計画の修正、改善ポイントの対応等を行う

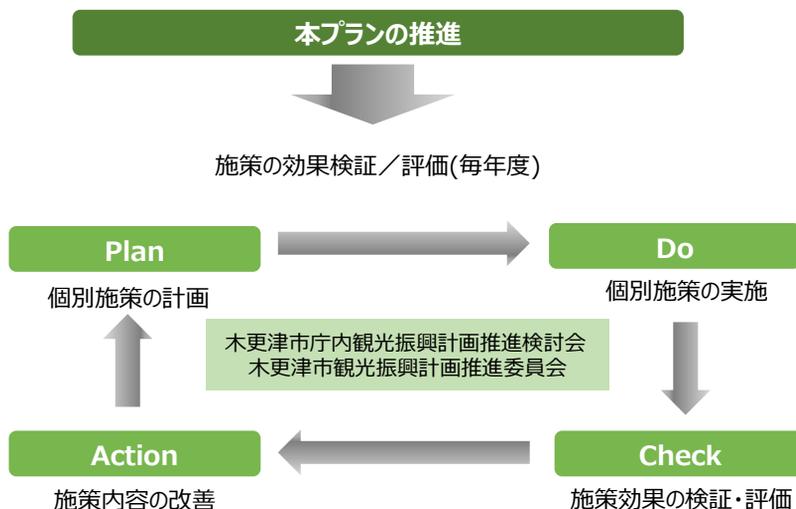
### ④行政

観光振興計画に掲げた施策の継続的な展開と、定期的な効果検証を行い、市内の持続的な観光振興を支援する。

- 観光振興計画の推進と、施策展開の効果検証
- 庁内の横断的な連携により、地域内の多様な主体の協働を促す
- 各主体の自律的な取組に向けた各種支援
- 国、県、近隣自治体との連携
- 新たな財源として見込まれる宿泊税の活用に向けた検討

## 3 施策の評価・効果検証

本計画の推進に当たっては、庁内関係部署による「木更津市庁内観光振興推進検討会」、附属機関である「木更津市観光振興計画推進委員会」において検証し、翌年度の施策や事業内容について見直しを行い、計画で掲げた目標の達成に向けて取り組みます。



【第3次木更津市観光振興計画施策推進シート】

## 資料編

木更津市観光振興計画推進委員会委員名簿

(委嘱機関：令和6年5月23日～令和8年5月22日)

区分	氏名	所属等
学識経験者	五十嵐 潤子	学校法人明海大学 ホスピタリティ・ツーリズム学部
関係団体を代表する者	神谷 啓子	一般社団法人木更津市 観光協会
	村上 愛美 (～令和6年10月31日) 葛 丈夫 (令和6年11月1日～)	公益社団法人ちば国際 コンベンションビューロー
	石原 敬司	木更津商工会議所
	満間 信樹	千葉県旅館ホテル 生活衛生同業組合 株式会社ホテル三日月
	沼野 丈幸	一般社団法人千葉県 バス協会 日東交通株式会社
公募	阿部 厚司	市民代表
その他観光振興の推進のため、 必要と認められる者	坂口 充男	東日本旅客鉄道株式会社 木更津駅

第3次木更津市観光振興計画策定に係る懇談会名簿

部会名	団体名	
飲食・宿泊部会	宝家	株式会社ごはんクリエイト
	オークラ アカデミアパークホテル	パブリカホテルです。
	株式会社コスモイニシア	
文化・ 体験・スポーツツーリズム 部会	KURRUKFIELDS	新木更津漁業協同組合
	ローヴァーズ株式会社	八劔八幡神社
	きさらづスポーツコミッション	木更津市文化協会
情報発信部会	株式会社ジェイコム千葉	株式会社かずさエフエム
	有限会社ちばマガジン	チーバくんプラザ・千葉県観光情報館-
	東京湾横断道路株式会社	株式会社Vivid Navigation

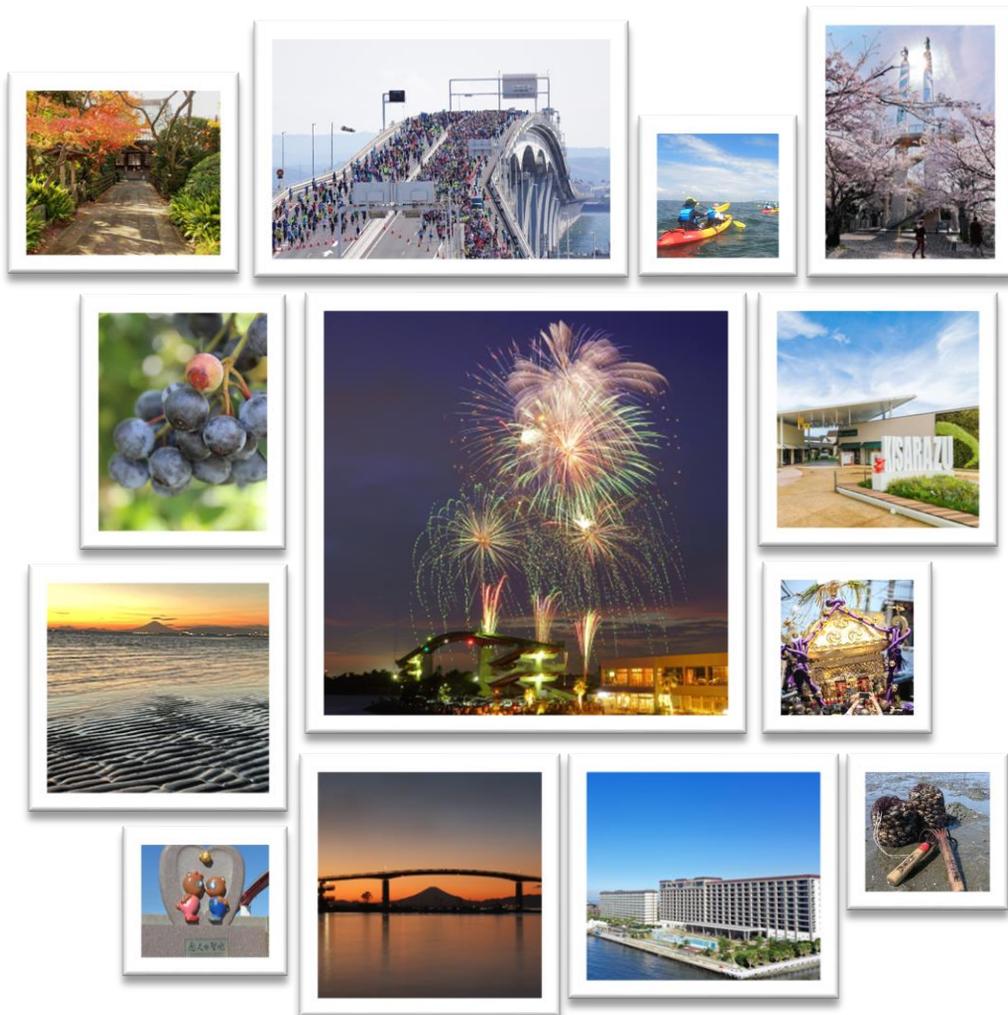
## 用語集（五十音順）

	用語	意味
1	IR整備 <small>あいはーるせいび</small>	IR（Integrated Resort）とは、カジノ、ホテル、劇場、国際会議場や展示会場などのMICE施設、ショッピングモールなどが集まった複合的な施設。2016年「IR推進法」が成立、2018年4月に「IR実施法案」が閣議決定、同年7月20日に成立。現在、大阪夢洲地区と宮崎県が「特定複合観光施設」として計画を申請している。
2	アウトバウンド	観光においては、日本から見た日本人の国外旅行を指す。
3	アクアラインイースト観光連盟 <small>かんこうれんめい</small>	木更津市、君津市、富津市、袖ケ浦市のかずさ4市と各市の観光協会、観光関係業者が連携し、君津地域の観光情報の発信やイベントなどの観光PRを行っている団体。
4	明日の日本を支える観光ビジョン <small>あす につぼん ささ かんこう</small>	「世界が訪れたい日本へ」をスローガンに、観光先進国に向けた、「3つの視点」と「10の改革」が示され、2030年までに、訪日外国人旅行者数を6,000万人、訪日外国人旅行消費額：15兆円等の目標が定められている。
5	いっせんぼく	木更津市の里山にある湧き水の名称で、竹林の根本からボクボクと、いくつもの水が湧いていたことから名付けられたといわれている。
6	インバウンド	観光においては、日本から見た外国人の訪日旅行を指す。
7	回遊性 <small>かいゆうせい</small>	観光においては、地域に訪れた旅行者が地域内の複数のスポットを訪問することを指す。
8	観光入込客数 <small>かんこういりこみきゃくすう</small>	当該地域を訪れた旅行者数。
9	観光立国推進基本計画 <small>かんこうりつこくすいしんきほんけいかく</small>	2006年に閣議決定された観光立国推進基本法に基づいて、観光立国を目指す上での具体的な目標などを掲げたもの。2023年に「第4次観光立国推進基本計画」が閣議決定され、持続可能な観光地域づくり戦略、インバウンド回復戦略、国内交流拡大戦略の方針のもとに、目標値と具体的な施策を掲げている。
10	木更津ロケーションサービス <small>きさらづ</small>	一般社団法人木更津市観光協会において、木更津市内での映画やドラマ等の撮影が円滑に行われる環境を整え、映像制作活動の誘致・支援等のロケーションサービスを行っている。
11	グリーンツーリズム	農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。1994年に、グリーンツーリズムの振興を支援する法律「農山漁村余暇法」が制定され、様々な地域で農家民宿の登録や基盤整備さらには体験・交流プログラムの作成がなされ、教育旅行の受け入れなど旅行者の受け入れが行われている。
12	クロモジ	クスノキ科の落葉低木で、楊枝、香辛原料、茶葉などに利用されている。市民による保全活動で、木更津の里山に自生していることが分かり、2015年春から苗を植栽し、栽培を始めている。
13	国際観光旅客税 <small>こくさいかんこうりょきゃくぜい</small>	観光先進国実現に向けた観光基盤の拡充・強化を図るための恒久的な財源を確保するために創設された制度。船舶又は航空会社（特別徴収義務者）が、チケット代金に上乗せする等の方法で、日本から出国する旅客（国際観光旅客等）から徴収（出国1回につき1,000円）。
14	国家戦略特区制度 <small>こっかせんりゃくとくくせいど</small>	成長戦略の実現に必要な、大胆な規制・制度改革を施行し、「世界で一番ビジネスがしやすい環境」を創出することを目的に創設。経済社会情勢の変化の中で、自治体や事業者が創意工夫を生かした取組を行う上で障害となってきたにもかかわらず、長年にわたり改革ができていない「岩盤規制」について、規制の特例措置の整備や関連する諸制度の改革等を、総合的かつ集中的に実施。

	用語	意味
15	サイクルステーション	サイクリストがトイレ、食事、水分補給などのために立ち寄ることができるサイクルラックが設置された休憩スポット。
16	サイクルラック	自立式スタンドが付いていない、主にスポーツバイク（自転車）を駐輪する為の設備。
17	サウンディング型市場調査 <small>がたしじょうちようさ</small>	事業発案段階や事業化検討段階において、事業内容や事業スキーム等に関して、直接の対話により民間事業者の意見や新たな事業提案の把握等を行うことで、対象事業の検討を進展させるための情報収集を目的とした手法。
18	サステナブルツーリズム	訪問客、産業、環境、受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社会文化、経済への影響に十分配慮した観光のこと。言い換えれば、旅行者、観光関係事業者、受け入れ地域にとって、「環境」「文化」「経済」の観点で、持続可能かつ発展性のある観光を目指すこと。
19	里山・里海 <small>さとやま さとうみ</small>	「里山」は、原生的な自然と都市との中間に位置し、集落とそれを取り巻く二次林、それらと混在する農地、ため池、草原などで構成される地域。「里海」は人手が加わることにより生物生産性と生物多様性が高くなった沿岸海域。
20	CRM <small>しーあーるえむ</small>	CRM（Customer Relationship Management）とは、製品・サービスを提供する顧客との間に良好な関係を築く手法。「顧客関係管理」
21	JNTO <small>じえいえぬていーおー</small>	日本政府観光局（独立行政法人国際観光振興機構）。海外からの訪日外国人旅行者の誘致活動を行う独立行政法人であり、世界25箇所に海外事務所を設置し広報宣伝活動を行っている他、外国人旅行者受け入れ体制の整備、MICEの誘致、ビジット・ジャパン事業の推進、各種市場調査・データ整備などを行っている。
22	指定文化財 <small>していぶんかざい</small>	文化財保護法で定義されている文化財（「有形文化財」、「無形文化財」、「民俗文化財」、「記念物」、「文化的景観」及び「伝統的建造物群」）の内、重要なものを国、自治体が指定し、保護の対象としているもの。
23	宿泊税 <small>しゆくほくぜい</small>	ホテル・旅館・民泊などの宿泊施設に宿泊する際に課される地方税の一種。観光振興や地域の公共サービスの充実を目的として、自治体が独自に導入する。課税対象や税率は自治体ごとに異なり、宿泊料金に応じた定額制や一定額以上に課税する方式が採用されることが多い。主に観光インフラ整備や文化資源の保護、観光振興策の財源として活用される。東京都、大阪府、京都市、福岡市などで導入されており、千葉県でも導入が検討されている。
24	シビックプライド	地域や自治体に対する住民の誇りや愛着、そして地域社会に貢献する意識を指す言葉である。地域住民のシビックプライドを育むことは、地域社会の活性化や魅力の向上に寄与し、住民の協力を促進する重要な要素となっている。
25	SWOT分析 <small>すうおつとぶんせき</small>	企業や事業の現状把握のための分析フレーム。内部環境を強み（Strength）、弱み（Weakness）、と外部環境を、機会（Opportunity）、脅威（Threat）として洗い出し、企業や事業などの現状を把握する分析フレーム。
26	簀立て <small>すだて</small>	干潟に網を仕掛け、引き潮時に逃げ遅れた魚を捕まえる東京湾に伝わる伝統漁法。現在は木更津市金田地区のみで行われている。屋形船に乗り、素手で捕まえた江戸前の新鮮な魚・カニ・あさり等をその場で食べることができる。
27	スポーツツーリズム	スポーツ資源とツーリズムを融合する取り組み。既存のスポーツ資源のほかにも地域資源がスポーツの力で観光資源となる可能性も秘めている。スポーツを、する（大会参加やアクティビティ、合宿など）、観る（スポーツ観戦など）、支える（ボランティアやマネジメントなど）の多方面から捉え、観光推進を図る考え方。
28	地域循環共生圏 <small>ちいきじゆんかんきようせいけん</small>	各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることをめざす考え方。

	用語	意味
29	ちばプロモーション協議会 <small>きょうぎかい</small>	事務局を千葉県観光物産協会に置き、観光にかかわる事業者や商工団体、農林水産団体、経済団体、文化団体、NPO、大学、行政などが協働して、持てる人材や資源を効果的に活用して、全国からの誘客に向けた広報宣伝、様々な分野の有する資源の連携及び活用、その他目的達成に必要な事業を実施している。
30	沖積平野 <small>ちゅうせきへいや</small>	河川下流部あるいは海岸付近に河川や海の作用によって、最終氷期最寒冷期以降の海面上昇に伴って堆積した沖積層からなる平野。
31	DX <small>でいーえつくす</small>	DX（Digital Transformation）とは、企業がビッグデータなどのデータとAIやIoTを始めとするデジタル技術を活用して、業務プロセスを改善してだけでなく、製品やサービス、ビジネスモデルそのものを変革するとともに、組織、企業文化、風土をも改革し、競争上の優位性を確立すること。
32	DMO <small>でいーえむおー</small> (観光地域づくり法人) <small>かんこうちいき ほうじん</small>	DMO（Destination Management Organization）とは、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。
33	都市公園 <small>としこうえん</small>	都市公園法に定められた、国または地方自治体が設置した公園。
34	二次交通 <small>にじこうつう</small>	拠点となる空港や鉄道の駅から観光地までの交通のこと。地域の観光地は、過疎化により鉄道やバスの便が悪いため、観光を振興させるには、自治体や民間企業が協力し観光地までのシャトルバスや乗り合いタクシーを運行し、レンタル自転車を整備するなど、旅行者の利便性を高める努力が必要となっている。
35	農泊 <small>のうはく</small>	農山漁村に宿泊し、滞在中に豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のこと。
36	パークベイプロジェクト	駅周辺部の人口減少問題、港周辺の観光資源の利活用、都市公園施設の活性化などの課題解決に向けた取り組みであり、官民が連携して木更津発展のシンボルである「みなと」を活かしたまちづくりを進め、賑わいや活力に満ちた「みなとまち木更津」の再生を目指している。
37	盤洲干潟 <small>ばんずひがた</small>	木更津市の小櫃川河口に広がる約1,400haの広大な砂質干潟。東京湾で唯一残された自然干潟であり、日本最大級の大きさを誇る。塩性湿地特有の植物を始め多種多様な動植物が生息している。
38	プレポストコンベンション	地域の魅力が感じられる懇親会や、チームビルディングにも最適な体験プログラム、観光やグルメなど、MICEの開催前後に行なわれる活動やプログラムのこと。
39	梵天立て <small>ぼんてんたて</small>	木更津市中島区で元禄時代から300年続いている伝統行事で、国の選択無形民俗文化財。1月初旬の早朝に、中島区の若衆達が、掛け声も勇ましく厳冬の家へ飛び込んで、5メートル余りの竹の先に御幣をつけた「ぼん天」を海中に立てるといふ勇壮な行事。この間、海岸では行人たちが般若心経を唱え、五穀豊穰・浜大漁などを祈願する。江戸時代元禄年間に、ふりかかった災難を出羽三山信仰によるご利益で解決したことから始まったと伝えられている。また、この年に成人を迎える若者が中心となる一種の成人儀礼として、300年以上も脈々と続いている。
40	マイクロツーリズム	新型コロナウイルスの流行をきっかけに感染防止の観点で広がった、自宅から1～2時間程度の移動圏内の「地元」で観光する近距離旅行の形態のこと。公共交通機関の利用を避けた自家用車による移動を中心とし、地域の魅力の再発見と地域経済への貢献を念頭に置いた旅行形態。

	用語	意味
41	まいす MICE	Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive tour（報奨・招待旅行）、Convention またはConference（大会・学会・国際会議）、Exhibition（展示会）の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一つの形態。参加者が多くだけでなく、一般の観光旅行に比べ消費額が大きいことなどから、MICEの誘致に力を入れる国や地域が多い。日本でも、インバウンド振興策の一環として、国や自治体により誘致活動が盛んに行なわれている。
42	ユニークベニュー	歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場。
43	ロードプライシング	特定の道路や地域、時間帯における自動車利用者に対して課金することにより、自動車利用の合理化や交通行動の転換を促し、自動車交通量の抑制を図る施策。
44	ロケツーリズム	映画・ドラマのロケ地を訪ね、ロケ地のみでなく、その地域の風景や食などを楽しむ旅行形態。



## 第3次木更津市観光振興計画

令和7年3月発行

木更津市

編集：木更津市経済部観光振興課

〒292-8501 木更津市富士見一丁目2番1号

TEL：0438-23-8459